

授 業 計 画

教 職 科 目

2 0 1 7 年 度

(平成 29 年度)



久留米工業大学

目 次

授 業 科 目	ページ	授 業 科 目	ページ
教職入門	1	工業科教育法Ⅰ	46
教育基礎論	4	工業科教育法Ⅱ	49
教育心理学	7	工業科教育法Ⅲ	52
教育行政学	10	道徳教育の理論と方法	55
教育課程・特別活動論	13	教育方法論	58
情報科教育法Ⅰ	16	生徒・進路指導論	61
情報科教育法Ⅱ	19	教育相談の基礎	64
理科教育法Ⅰ	22	教職実践演習	67
理科教育法Ⅱ	25	教育実習Ⅰ	70
理科教育法Ⅲ	28	教育実習Ⅱ	73
理科教育法Ⅳ	31	教育実習Ⅲ	76
数学科教育法Ⅰ	34	介護等体験	79
数学科教育法Ⅱ	37		
数学科教育法Ⅲ	40		
数学科教育法Ⅳ	43		

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70700	後期	4	2
授業科目名	教職入門			学習相談	
英字科目名	Quality of Educators			< e-Mail > yuk-hr@kurume-it.ac.jp を利用する。 または、6号館4階 原研究室 にて 相談する。	
代表教員名		担当教員名			
原幸範		原幸範 (Yukinori HARA)			
使用テキスト					
解説プリントや演習プリント、参考資料、新聞記事などを配布する。					
授業の概要					
『教育力』に関する分析を通して、教師の使命、授業の面白さ、授業技術の向上などについて考察する。 生徒にとっての「魅力ある授業」を組み立てることは教師の必須条件である。そのためには教材研究、 生徒理解、授業指導方法を理解することが重要となる。学習指導案の作成や模擬授業の実施、授業参観 を通して教師の役割と魅力を学ぶ。					
到達目標					
(1) 教師に関する基礎基本を学び、教師の職責を十分に果たせる能力を身につける。 (2) 学校教育の意義と役割を理解し、教育が果たす有意性と価値について確固たる考えを身につける。 (3) 教職の業務内容や勤務状況を具体的に学び、将来 教職に就くかどうかの判断ができる。					
履修上の注意					
・ 論作文を書くときには、「自分ならば学校現場でどのように対処するか。」を考えて記述する。 ・ 具体的事例では、「学校現場で如何に対応されているのか。」を判断しながらレポートを作成する。 ・ 身近な教育問題を考えるために、最近の新聞記事を提示するので解決策を考える。 ・ 教材研究の方法、生徒理解のための方法、授業指導方法を理解しつつ学習指導案を作成する。					
成績評価の方法・基準					
演習課題の提出、論作文の作成、学習指導案の作成 (50%) 期末試験 (50%) 等を総合的に 評価する。					
課題に対するフィードバック					
1. 演習課題及び論作文は指定された期日までに提出する。不十分な場合は返却するので修正して再提出する。 2. 講義で解説した部分や利用したプリントは最終講義までに学び直しをする。 3. 学習指導案は指定された期日までに提出する。学習指導案の草案で不明な点は相談に応じる。					
参考図書	『分かる授業ができる学習指導案のつくり方』 大木光夫(著) (学習研究社) 『教育力』 齊藤 孝(著) (岩波新書) (これらは講義の中で必要に応じて提示する。)				
関連科目	教職科目全般				
学位授与 の方針と の関連	思考・判断 (3) 修得した幅広い教養や専門知識を活用し、社会の要求に対応するための自律的、創造 的および汎用的な思考ができる				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	教えることと学ぶこと ～教育の意義と目的について～	予習	参考図書『教育力』の序章を読んでくる。
		復習	授業内容を振り返り、『自分の場合』を考える。
(2)	理想とする教師像と教師の使命 ～教師の使命感と役割について～	予習	参考図書『教育力』の第1章を読んでくる。
		復習	授業内容を振り返り、論作文Ⅰを作成してくる。
(3)	教育力の基本について ～教育における技能・方法について～	予習	参考図書『教育力』の第4章を読んでくる。
		復習	授業内容を振り返り、論作文Ⅱを作成してくる。
(4)	教師に求められる資質と能力 ～教師の役割と業務遂行について～	予習	最近の教育に関する新聞記事の切り抜きを持参してくる。
		復習	授業内容を振り返り、論作文Ⅲを作成してくる。
(5)	教育の専門性と教育職員のあり方 ～教育職員養成審議会答申から～	予習	最近の教育に関する新聞記事の切り抜きを持参してくる。
		復習	授業内容を振り返り、演習課題を仕上げる。
(6)	現代社会が求める学校教育と教師 ～教育制度の変遷と今後の教育～	予習	文部科学省 HP を参考にして提示された課題を考えてくる。
		復習	これまでの授業内容を振り返り、演習課題を仕上げる。
(7)	授業力の向上 Ⅰ ～板書計画と発問の工夫～	予習	ネット等を利用して与えられた課題を考えてくる。
		復習	配布された資料をもとに演習課題を仕上げる。
(8)	授業力の向上 Ⅱ ～机間指導とノート指導～	予習	ネット等を利用して与えられた課題を考えてくる。
		復習	配布された資料をもとに演習課題を仕上げる。
(9)	学習指導案の作成 Ⅰ ～生徒理解の方法と生徒観～	予習	参考図書『分かる授業ができる学習指導案の作り方』を読んでくる。
		復習	授業内容を振り返り、演習課題を仕上げる。
(10)	学習指導案の作成 Ⅱ ～教材研究と題材観・単元観～	予習	参考図書『分かる授業ができる学習指導案の作り方』を読んでくる。
		復習	授業内容を振り返り、演習課題を仕上げる。

(11)	学習指導案の作成 Ⅲ ～授業形態と指導方法観～	予習	参考図書『分かる授業ができる学習指導案のつくり方』を読んてくる。
		復習	授業内容を振り返り、演習課題を仕上げる。
(12)	学習指導案の作成 Ⅳ ～授業力と学習の展開方法～	予習	参考図書『分かる授業ができる学習指導案のつくり方』を読んてくる。
		復習	授業内容を振り返り、演習課題を仕上げる。
(13)	教員免許制度の概要 ～教員免許の取得と更新～	予習	文部科学省 HP を参考にして提示された課題を考えてくる。
		復習	授業内容を振り返り、演習課題を仕上げる。
(14)	教員の勤務実態 ～勤務時間・休暇・出張・給与等～	予習	都道府県 HP にある教員採用状況を調べてくる。
		復習	授業内容を振り返り、演習課題を仕上げる。
(15)	教員の順守事項 ～信頼される教師になるために～	予習	最近の教育に関する新聞記事の切り抜きを持参してくる。
		復習	これまでの授業内容を振り返り、教師像を描く。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70620	後期	2	2
授業科目名	教育基礎論			学習相談	
英字科目名	Introduction to Education			堀研究室（6号館4階） e-mail: hori@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
堀 憲一郎 (Kenichirou HORI)		堀 憲一郎 (Kenichirou HORI)			
使用テキスト					
プリント配布					
授業の概要					
毎回の授業の前半では、教育をめぐる社会的トピックをとりあげ、受講者同士で議論を行い、自分たちの考えを発表する。後半では、講義を通して様々な教育に関する思想や事項を今日の実際の教育場面に即して検討する。					
到達目標					
(1)教育についての全般的な見通しをもつために必要な知識を身に付ける。 (2)また、それを自分の言葉で端的に表現出来る文章力を身に付ける。 (3)他者と協同して理解を深めたり、新しい知識を身に付けていく方法を身に付ける。					
履修上の注意					
指定教科書は用いないので、講義内容をノートにまとめ、復習すること。毎回の授業では、学生同士の活発なディスカッションと発表が必要。また、欠席や遅刻によりグループディスカッションへの参加ができない場合は、やむを得ない理由がある場合を除き、授業参加についての評価への減点対象となる。久留米工業大学 E キャンパスのシステムを利用するので、登録の上受講すること。					
成績評価の方法・基準					
毎回の授業毎の課題 20%・グループディスカッション等の授業参加 20%, 学期末に課す課題 60%で総合評価					
課題に対するフィードバック					
原則として「久留米工業大学 E キャンパス」のシステムを利用して行う					
参考図書	授業で紹介する				
関連科目	教職科目全般				
学位授与の方針との関連	(2) 教科教育法や教育に関する基盤的な知識・技能や情報端末機器（ICT 機器）に関する知識・技能を修得し、活用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	教育の理念：なぜ人間に教育は必要なのか	予習	E キャンパスを通して示す、教育をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(2)	教育の目的：教育観と教育の目的	予習	E キャンパスを通して示す、教育をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(3)	教育の原理：教育の原理と教育の方法	予習	E キャンパスを通して示す、教育をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(4)	西洋の教育の歴史(1)：古代ギリシア～中世	予習	E キャンパスを通して示す、教育をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(5)	西洋の教育の歴史(2)：中世～近世	予習	E キャンパスを通して示す、教育をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(6)	西洋の教育の歴史(3)：現代	予習	E キャンパスを通して示す、教育をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(7)	日本の教育の歴史(1)：古代～近世	予習	E キャンパスを通して示す、教育をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと

(8)	日本の教育の歴史(2)：近代～現代	予習	E キャンパスを通して示す、教育をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(9)	言語・コミュニケーションと教育：コミュニケーション能力を育む教育とは	予習	E キャンパスを通して示す、教育をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(10)	環境デザインと教育：教育とそれを効果的にする環境のデザインについて	予習	E キャンパスを通して示す、教育をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(11)	遊びと教育：遊びによる諸能力の発達	予習	E キャンパスを通して示す、教育をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(12)	しつけと教育：生活の中でのしつけ	予習	E キャンパスを通して示す、教育をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(13)	生活習慣と教育：生活習慣の変化による心身の変化	予習	E キャンパスを通して示す、教育をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(14)	教育と多文化理解：グローバル教育の課題	予習	E キャンパスを通して示す、教育をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(15)	総まとめ：全体の学習の振り返りと理解の確認	予習	E キャンパスを通して示す、教育をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70560	前期	3	2
授業科目名	教育心理学			学習相談	
英字科目名	Educational Psychology			堀 研究室 e-mail: hori@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
堀 憲一郎 (Kenichirou HORI)		堀 憲一郎 (Kenichirou HORI)			
使用テキスト					
プリント配布					
授業の概要					
教育心理学では、人がどのように発達し様々な能力を獲得していくのかについて理解するとともに、教授学習場面において人がどのように学習内容を理解していくのかについてのメカニズムと、そこに関わる教師の役割や影響、また教育心理学から見た教育における諸課題について概観していく。					
到達目標					
(1) 生徒を多面的に理解できる。 (2) 教師としての言動がどのような教育的意味を持つのかを理解する。 (3) 教師としてより効果的な教育的関わりを生徒との間に構築できる。					
履修上の注意					
久留米工業大学 E キャンパスのシステムを利用するので、各自登録の上、受講すること。					
成績評価の方法・基準					
授業の單元ごとの小テスト提出 20%, 期末試験 80%で総合評価					
課題に対するフィードバック					
原則として久留米工業大学 E キャンパスのシステムを利用して行う。					
参考図書	授業で紹介する。				
関連科目	教職科目全般				
学位授与の方針との関連	(2) 教科教育法や教育に関する基盤的な知識・技能や情報端末機器 (ICT 機器) に関する知識・技能を修得し、活用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	教育心理学とは何か：教育心理学の目的と概要	予習	シラバスをよく読み、授業の概要をよく理解した上で受講すること。E キャンパスへ登録の上、受講すること。
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(2)	人はどのように学習するのか：心理学における「学習」の範囲と意味の理解	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(3)	学習のメカニズム：学習のメカニズム	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(4)	学習を支える要因：動機づけ他、学習を促進する要因について	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(5)	発達とは何か：発達を心理的見地から見る	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(6)	発達段階と発達課題：各発達段階の特徴とそこでの課題の理解	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(7)	社会性の発達：コミュニケーションの発達と課題	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(8)	知的能力の発達：知的能力・知能の発達について	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(9)	パーソナリティの理解：人格理解の理論と方法	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと

(10)	適応と障害：心理的不適応の原因とそれへの対応	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(11)	発達障害の理解と対応：LD・ADHD等発達障害の理解と対応について	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(12)	教授学習過程の分析：教授学習過程の分析	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(13)	学級集団の理解：学級集団と教師の役割	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(14)	教育評価と教育統計：教育効果の方法と問題	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(15)	総まとめ：全体的な振り返りと総括	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70570	後期	4	2
授業科目名	教育行政学			学習相談	
英字科目名	Educational Policy			＜ e-Mail ＞ yuk-hr@kurume-it.ac.jp を利用する。 または、6号館4階 原研究室 にて相談する。	
代表教員名		担当教員名			
原幸範		原幸範（Yukinori HARA）			
使用テキスト					
解説プリントと演習プリント、参考資料や新聞記事などを配布する。					
授業の概要					
20 世紀における日本の公教育制度の変遷を振り返えることにより現在の教育政策の在り方を解説する。これから 20 年ほどの我が国の教育政策を概観しながら、地方における教育委員会の教育行政および地域の教育力などについても理解を深める。さらに、学校経営と組織力、学級経営と教師力、生涯学習などについて学びつつ、教育に携わる人々にとって教育行政がどのようにあるべきかを考察する。					
到達目標					
（１）日本の公教育の仕組みを理解し、現代の教育課題を探り、とその解決方法を考える力を身につける。 （２）学校教育と生涯教育の関連を基にして、これからの学校教育の方向性を見通す力を身につける。 （３）育現場における具体的事例を考察することにより、適切な行動がとれる実践的能力を身につける。					
履修上の注意					
・ 講義内容に関する確認テストをたびたび実施するので、逐次復習しつつ綴じ込んで整理する。 ・ 講義中に提示された「我が国の最近の教育政策に関する新聞記事」における視点などを整理する。					
成績評価の方法・基準					
課題レポート（30％）、確認テスト（10％）および 期末試験（60％）、これらを総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック					
１． 講義中に出題した演習問題や確認テストは、最終講義までに学び直す。 ２． 課題レポートは指定された期日までに提出する。不明な場合は事前に相談する。 ３． 期末試験の解答例を原研究室（6号館4階）に掲示するので各自確認する。					
参考図書	『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省（ぎょうせい 2008.9.） 『いま、先生は』朝日新聞教育チーム 著（岩波書店 2011.10.）				
関連科目	教職科目全般				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （１）技術者に求められる幅広い教養および工学の基礎知識修を身につけている。 思考・判断 （３）修得した幅広い教養や専門知識を活用し、社会の要求に対応するための自律的、創造的および汎用的な思考ができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	学校現場で働く教師の現状と課題 ～ 教師の勤務状況と教育課題～	予習	教育現場で問題となっている事項を調べてくる。
		復習	授業を振り返り、教師の現状を理解する。
(2)	教育制度の変遷と法的根拠 I ～日 本国憲法における教育関連条項～	予習	日本国憲法における教育関係条項を調べてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(3)	教育制度の変遷と法的根拠 II ～教 育基本法と教育の意義・目的～	予習	学習指導要領 解説編に記載されている教育基本法を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(4)	教育制度の変遷と法的根拠 III ～教 育基本法の教育行政（第16条）～	予習	教育基本法の16条と17条の意義を考えてくる。
		復習	授業を振り返り、演習プリントを仕上げる。
(5)	教育制度改革の動向 1 ～教員と教育 公務員特例法ほか～	予習	これまでの法的根拠を整理して教育課題を考えてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(6)	教育制度改革の動向 II ～教育振興 基本計画と教育行政～	予習	文部科学省 HP を活用して「教育振興計画」を調べてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(7)	教育制度改革の動向 III ～中央教育 審議会答申と教育再生～	予習	文部科学省 HP を活用して「現在の教育改革」を調べてくる。
		復習	授業を振り返り、演習プリントを仕上げる。
(8)	地方の教育行政 I ～教育委員会と 学校の関係～	予習	地方の教育行政に関係する法律を調べてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(9)	地方教育行政 II ～総合教育会議と 教育長～	予習	地方教育行政の組織に関する事項を調べてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(10)	地方教育行政 III ～学校運営協議会 と学校評議員～	予習	地方の教育行政組織の運営について調べてくる。
		復習	授業を振り返り、演習プリントを仕上げる。

(11)	学校運営と学校教育法 I ～学校の教育目標と運営～	予習	学習指導要領 解説編に記載されている学校教育法を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(12)	学校運営と学校教育法 II ～学校の組織力と校務分掌～	予習	学校教育法 21 条と 37 条の意義を考えてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(13)	学校運営と学校教育法 III ～学校自己評価と情報公開～	予習	学校教育法 42 条及び 43 条の意義を考えてくる。
		復習	授業を振り返り、演習プリントを仕上げる。
(14)	生涯学習社会と学校教育 ～生涯教育と学校の役割～	予習	文部科学省 HP から「教育政策の現状」を調べてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(15)	学校・保護者・地域と教育行政 ～教師が意欲的に働く学校づくり～	予習	教育課題解決に向けた教育行政を振り返る。
		復習	授業内容を振り返り、纏めプリントを仕上げる。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70690	前期	3	2
授業科目名	教育課程・特別活動論			学習相談	
英字科目名	Curriculum Development and Extra-Curricular Activities			< e-Mail > yuk-hr@kurume-it.ac.jp を利用する。 または、6号館4階 原研究室 にて 相談する。	
代表教員名		担当教員名			
原幸範		原幸範（Yukinori HARA）			
使用テキスト					
『中学校学習指導要領 総則編』文部科学省（ぎょうせい 2008.9.）及び 『中学校学習指導要領 特別活動編』文部科学省（ぎょうせい 2008.9.） 『高等学校学習指導要領 総則編』文部科学省（東山書房 2009.11.）及び 『高等学校学習指導要領 特別活動編』文部科学省（東山書房 2009.11.）					
授業の概要					
教育課程を編成する考え方や基本的な枠組みについて解説する。また、特別活動の内容や指導方法について具体的な事例をもとに解説する。適宜、学習指導要領等を参照しながら、学校現場における実践的活動の意義を考察する。					
到達目標					
（１）教育課程の意義を理解し、生徒の個性や能力を生かすための教育課程編成ができる。 （２）特別活動の内容を理解し、生徒が生き生きと活動できるための特別活動の設定と具体的方法を探求する力を身に付ける。 （３）提示された事例の教育的意義と価値について考察し、現場教師が如何に迷わず自信をもって生徒に向き合っているかを理解する力を身につける。					
履修上の注意					
・出身校の教育課程を参考にして教育課程の編成を試みるので、そのための資料を準備する。 ・編成した教育課程がどのような教育効果をあげて、生徒への影響が如何になるかを考察する。 ・生徒の個性と能力を育てるためには、特別活動はどのような効果をもたらすのかを考察する。					
成績評価の方法・基準					
授業取り組み状況（20％） 課題レポート（30％） 期末試験（50％）					
課題に対するフィードバック					
１．講義中に出題した演習プリントや確認テストを最終講義までに学び直しをする。 ２．課題レポート（演習問題や自作「教育課程編成」など）は、指定された期日までに提出する。 ３．期末試験の解答例を原研究室（6号館4階）に掲示するので確認する。					
参考図書	『解説 教育六法（平成26年度版）』編修委員会 編（三省堂書店）				
関連科目	教職科目全般				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （１）技術者に求められる幅広い教養および工学の基礎知識修を身につけている。 思考・判断 （３）修得した幅広い教養や専門知識を活用し、社会の要求に対応するための自律的、創造的および汎用的な思考ができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	教育課程とは何か。 ～学習指導要領を概観する～	予習	『学習指導要領 総則編』の始めの部分を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、プリント問題を解き直す。
(2)	教育課程の類型 I ～カリキュラムの特徴と相違点～	予習	カリキュラムに関する演習課題を調べてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリント問題を解き直す。
(3)	教育課程の類型 II ～カリキュラムの特徴を生かす～	予習	カリキュラムに関する演習課題を調べてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリント問題を解き直す。
(4)	教育課程の基本的枠組み ～教育課程の法的根拠～	予習	『学習指導要領 総則編』に記載されている学校教育法を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、プリント問題を解き直す。
(5)	学習指導要領と教育改革 ～概要と沿革、今後の流れ～	予習	『学習指導要領 総則編』の付則部分を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、プリント問題を解き直す。
(6)	教科書制度と教科書内容 ～教科書検定と教育内容の変化～	予習	文部科学省 HP を活用し、教科書制度を調べてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリント問題を解き直す。
(7)	教育課程編成のための視点 ～学習内容の系統性と排列～	予習	『学習指導要領総則編』の教育課程編成を読んでくる。
		復習	授業を振り返り、演習プリントを仕上げる。
(8)	教育課程編成と活用 I ～教育課程編成の工夫～	予習	出身校や有名校の教育課程を調べてくる。
		復習	授業内容を復習して、教育課程を編成する。
(9)	教育課程編成と活用 II ～教育課程編成の影響～	予習	各自が作成している教育課程の特徴を考えてくる。
		復習	授業内容を復習して、教育課程を再度編成し直す。

(10)	教育課程における特別活動 ～特別活動の内容と教育的意義～	予習	『学習指導要領 特別編』の始めの部分を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(11)	特別活動の目標設定 ～特別活動における自己教育力育成～	予習	『学習指導要領 特別編』の関係部分を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(12)	学級活動・ホームルーム活動 ～学級経営における担任の役割～	予習	『学習指導要領 特別編』の学級活動を読んでくる。
		復習	授業内容を振り返り、演習プリントを仕上げる。
(13)	生徒会活動の概要と現状 ～自治的活動への意識づけ～	予習	『学習指導要領 特別編』の生徒会を読んでくる。
		復習	授業内容を振り返り、演習プリントを仕上げる。
(14)	学校行事の概要と現状 ～学校業における自己教育力の育成～	予習	『学習指導要領 特別編』の学校行事を読んでくる。
		復習	授業内容を振り返り、演習プリントを仕上げる。
(15)	特別活動が教育に与える影響と効果 ～学校教育目標の達成と特別活動～	予習	『学習指導要領 特別編』の重点部分を読み直してくる。
		復習	授業内容を振り返り、纏めプリントを仕上げる。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70930	前期	5	2
授業科目名	情報科教育法 I			学習相談	
英字科目名	Instructional Methods in Information I			5 号館 3 階 吉田研究室	
代表教員名		担当教員名			
吉 田 清 明 (Kiyooki YOSHIDA)		吉 田 清 明 (Kiyooki YOSHIDA)			
使用テキスト					
岡本 敏雄 他著「情報科教育法(第2版)」(丸善出版)、『高等学校学習指導要領・第2章 第10節 情報』 (2009年3月) およびプリント配布					
授業の概要					
「学科に共通する教科」としての「情報」のうち、前半では「社会と情報」の、後半では「情報の科学」の目標と内容について検討する。また、学習指導案の作成と模擬授業を指導し、学習指導案の提出と模擬授業の実施を求める。					
到達目標					
(1) 情報化社会に積極的に参加する能力と態度を身につける。 (2) 情報化社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を生徒にどのように教育していけばよいかについて自分の考えを持てるようにする。 (3) 学習指導案の作成を通して、各分野の教授法についての考えを持てるようにする。					
履修上の注意					
情報教育についての自分の考えを主体的・積極的に深めていくこと。					
成績評価の方法・基準					
学習指導案(20%)、模擬授業(30%)、期末テスト(50%)により総合評価					
課題に対するフィードバック					
・講義中に出した課題や小テストは、最終講義までにフィードバックする。 ・期末試験については、試験終了後、吉田研究室の前に解答例を掲示する。					
参考図書	文部科学省 著「高等学校学習指導要領解説情報編」(開隆堂出版)				
関連科目	情報科教育法Ⅰ → 情報科教育法Ⅱ				
学位授与の方針との関連					

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	「社会と情報」の概要と目標 情報の特徴、情報化が社会に及ぼす影響	予習	教科書の該当箇所を読んで予習する。
		復習	授業内容を整理しておく。
(2)	情報の活用と表現 情報とメディアの特徴、情報のデジタル化、情報の表現と伝達	予習	教科書の該当箇所を読んで予習する。
		復習	授業内容を整理しておく。
(3)	情報通信ネットワークとコミュニケーション (1) コミュニケーション手段の発達、情報通信ネットワークの仕組み	予習	教科書の該当箇所を読んで予習する。
		復習	授業内容を整理しておく。
(4)	情報通信ネットワークとコミュニケーション (2) 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション	予習	教科書の該当箇所を読んで予習する。
		復習	授業内容を整理しておく。
(5)	情報社会の課題と情報モラル (1) 情報化が社会に及ぼす影響と課題	予習	教科書の該当箇所を読んで予習する。
		復習	授業内容を整理しておく。
(6)	情報社会の課題と情報モラル (2) 情報セキュリティの確保、法と個人の責任	予習	教科書の該当箇所を読んで予習する。
		復習	授業内容を整理しておく。
(7)	望ましい情報社会の構築 社会における情報システム、情報システムと人間、情報社会における問題の解決	予習	教科書の該当箇所を読んで予習する。
		復習	授業内容を整理しておく。
(8)	「情報の科学」の概要と目標 情報技術の役割と影響、情報と情報技術の問題に取り組むための科学的な考え方	予習	教科書の該当箇所を読んで予習する。
		復習	授業内容を整理しておく。
(9)	コンピュータと情報通信ネットワーク コンピュータと情報の処理、情報通信ネットワークの仕組み、情報システムの働きと提供するサービス	予習	教科書の該当箇所を読んで予習する。
		復習	授業内容を整理しておく。
(10)	問題解決とコンピュータ (1) 問題解決の基本的な考え方、問題の解決と処理手段の自動化	予習	教科書の該当箇所を読んで予習する。
		復習	授業内容を整理しておく。
(11)	問題解決とコンピュータ (2) モデル化とシミュレーション	予習	教科書の該当箇所を読んで予習する。
		復習	授業内容を整理しておく。
(12)	情報の管理と問題解決 (1) 情報通信ネットワークと問題解決、評価と改善	予習	教科書の該当箇所を読んで予習する。
		復習	授業内容を整理しておく。

(13)	情報の管理と問題解決 (2) 情報の蓄積・管理とデータベース	予習	教科書の該当箇所を読んで予習する。
		復習	授業内容を整理しておく。
(14)	情報技術の進展と情報モラル 社会の情報化と人間，情報社会の安全と発展	予習	教科書の該当箇所を読んで予習する。
		復習	授業内容を整理しておく。
(15)	総まとめ	予習	1～14 回までの授業内容を整理しておく。
		復習	全体のまとめを行う。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70940	後期	6	2
授業科目名	情報科教育法Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Instructional Methods in Information Ⅱ			5 号館 4 階 小路口研究室 e-mail: kojguchi@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
小路口心二 (Shinji KOJIGUCHI)		小路口心二 (Shinji KOJIGUCHI)			
使用テキスト					
文部科学省「高等学校学習指導要領解説 情報編」					
授業の概要					
「主として専門学科において開設される教科」としての「情報」の目標と内容について検討する。授業では学生同士による討議の時間も設け、各分野にどのような教育的工夫を行ない、どのような所に焦点を当てて教育を行なっていけばよいかについて互いの考えを深め合う。					
到達目標					
(1) 情報の基本的知識と技術や現代社会における情報の意義や役割を生徒に理解させ、教育するにはどのようにすればよいかについて自分の考えを持てるようにする。					
(2) 学生同士による討議を通して、教育者としてみずから工夫しながら授業を組み立てることができる。					
(3) 学習指導案の作成を通して、教授法についての考えも持てるようにする。					
履修上の注意					
授業において積極的に討議に参加し、情報教育についての自分の考えを深めること。					
成績評価の方法・基準					
授業での討議の内容 20%、学習指導案 40%、期末テスト 40%					
課題に対するフィードバック					
演習中に出した課題については、最終講義までにフィードバックする。					
参考図書	岡本 俊雄 他,「最新情報の科学」(実教出版)				
関連科目	情報科教育法Ⅰ → 情報科教育法Ⅱ				
学位授与の方針との関連					

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	情報産業と社会 ・情報化と社会 ・情報産業と情報技術、情報モラル	予習	テキスト等の該当箇所を読んで予習する。
		復習	情報と情報産業の学習について考える。
(2)	情報の表現と管理 ・情報の表現 ・情報の管理	予習	テキスト等の該当箇所を読んで予習する。
		復習	情報の表現と管理の学習について考える。
(3)	情報と問題解決 ・問題の発見と解決 ・問題解決の過程と評価	予習	テキスト等の該当箇所を読んで予習する。
		復習	問題解決とその評価の学習について考える。
(4)	情報テクノロジー ・ハードウェア ・ソフトウェア ・情報システム	予習	テキスト等の該当箇所を読んで予習する。
		復習	情報テクノロジー について調べる。
(5)	(5) アルゴリズムとプログラム(1) ・アルゴリズムの基礎 ・プログラミングの基礎	予習	テキスト等の該当箇所を読んで予習する。
		復習	プログラミングの学習について考える。
(6)	(6) アルゴリズムとプログラム(2) ・数値計算の基礎 ・データの型と構造	予習	テキスト等の該当箇所を読んで予習する。
		復習	プログラミングの学習について考える。
(7)	(7) ネットワークシステム(1) ・ネットワークの基礎 ・ネットワークの設計と構築	予習	テキスト等の該当箇所を読んで予習する。
		復習	ネットワークシステムに関連するものについて調べる。
(8)	(8) ネットワークシステム(2) ・ネットワークの運用と保守 ・ネットワークの安全対策	予習	テキスト等の該当箇所を読んで予習する。
		復習	ネットワークシステムに関連するものについて調べる。

(9)	(9) データベース(1) ・データベースの概要 ・データベース設計	予習	テキスト等の該当箇所を読んで予習する。
		復習	関連するものについて調べる。
(10)	(10) データベース(2) ・データベースの操作言語 ・データベース管理システム	予習	テキスト等の該当箇所を読んで予習する。
		復習	関連するものについて調べる。
(11)	(11) 情報メディア ・メディア の基礎 ・情報メディア の特性と活用	予習	テキスト等の該当箇所を読んで予習する。
		復習	身近な問題と結びつけて考える。
(12)	(12) 情報デザイン ・情報デザインの基礎 ・情報デザインの要素と構成	予習	テキスト等の該当箇所を読んで予習する。
		復習	関連するものについて調べる。
(13)	(13) 表現メディアの編集と表現 ・表現メディアの種類と特性 ・CG の制作	予習	テキスト等の該当箇所を読んで予習する。
		復習	関連するものについて調べる。
(14)	(14) 情報コンテンツ実習 ・実習指導の注意点	予習	テキスト等の該当箇所を読んで予習する。
		復習	関連するものについて調べる。
(15)	(15) 課題研究 □課題研究指導の注意点	予習	テキスト等の該当箇所を読んで予習する。
		復習	課題研究の学習について考える。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70850	前期	5	2
授業科目名	理科教育法Ⅰ			学習相談	
英字科目名	Instructional Methods in School ScienceⅠ			中村(文)研究室(3号館1階) e-mail: fumihiko@kurume-it.ac.jp 井出研究室(3号館1階) e-mail: idejy@kurume-it.ac.jp 中村(美)研究室(3号館1階) e-mail: misanaka@kurume-it.ac.jp 野田研究室(図書館1階) e-mail: noda@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
井出純哉		中村文彦・井出純哉・中村美紗・野田常雄(授業形態:複数)			
使用テキスト					
『中学校学習指導要領解説・理科編』文部科学省編(大日本図書)(2008年9月) 『高等学校学習指導要領解説・理科編理数編』文部科学省編(実教出版)(2009年12月)およびプリント配布					
授業の概要					
本科目では、わが国における理科教育の変遷、諸外国の理科教育、また理科教育の背後にある科学観・科学・技術観といった点について学ぶ。また、『高等学校学習指導要領』について検討する。					
到達目標					
(1) 理科教育に関する様々な事項を学び、理科教員として基本的な知識を身につける。 (2) 理科教育について広く考える視点を身につける。 (3) 『高等学校学習指導要領』の検討を通し、高校理科の目標と内容を把握する。					
履修上の注意					
理科教育についての自分の考えを主体的・積極的に深めていくこと。 毎回の授業の最後に、その時間の授業で理解したこと・考えたことをレポートにまとめてもらう。					
成績評価の方法・基準					
毎回の授業後のレポート 50%、期末テスト 50%					
課題に対するフィードバック					
講義中に出した課題や小テストは、最終講義までにフィードバックする。					
参考図書	中学・高等学校理科教科書				
関連科目	理科教育法Ⅰ → 理科教育法Ⅱ → 理科教育法Ⅲ → 理科教育法Ⅳ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2) 教科教育法や教育に関する基盤的な知識・技能や情報端末機器(ICT 機器)に関する知識・技能を修得し、活用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	わが国における理科教育の変遷(1) 明治期から第二次大戦前までの理科教育	予習	理科教育法Ⅰの講義を受ける理由を整理し、発表できるようにしておく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(2)	わが国における理科教育の変遷(2) 第二次大戦後の理科教育	予習	指定した予習用資料を読んでおく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(3)	諸外国の理科教育(1) ヨーロッパの理科教育	予習	高等学校学習指導要領解説理科編の「第1章第1節改定の趣旨」を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(4)	諸外国の理科教育(2) アメリカの理科教育	予習	指定した予習用資料を読んでおく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(5)	理科教育の背後にある科学観(1) 科学的発見を支える思想	予習	指定した予習用資料を読んでおく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(6)	理科教育の背後にある科学観(2) 科学における聖俗革命	予習	指定した予習用資料を読んでおく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(7)	理科教育の背後にある科学技術観 応用科学の思想	予習	指定した予習用資料を読んでおく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(8)	高校理科の概要と目標 科学的に探求する能力と態度	予習	高等学校学習指導要領解説理科編の「第1章第2節理科の目標」を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(9)	「科学と人間生活」の目標、内容 身近な事物・現象に対する科学的興味	予習	高等学校学習指導要領解説理科編の「第2章第1節科学と人間生活」を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。

(10)	「物理基礎、物理」の目標、内容 運動、熱、波、電気と磁気、原子	予習	高等学校学習指導要領解説理科編の「第2章第2節物理基礎」および「第3節物理」を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(11)	「化学基礎、化学」の目標、内容 物質の状態と変化、無機物質、有機化合物	予習	高等学校学習指導要領解説理科編の「第2章第4節化学基礎」および「第5節化学」を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(12)	「生物基礎、生物」の目標、内容 生命現象、生殖と発生、生態と環境、進化	予習	高等学校学習指導要領解説理科編の「第2章第6節生物基礎」および「第7節生物」を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(13)	「地学基礎、地学」の目標、内容 地球の活動、大気と海洋、宇宙	予習	高等学校学習指導要領解説理科編の「第2章第8節地学基礎」および「第9節地学」を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(14)	「理科課題研究」の目標、内容 課題の設定、観察・実験	予習	高等学校学習指導要領解説理科編の「第2章第10節理科課題研究」を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(15)	総まとめ 授業内容のふりかえり	予習	授業内容を振り返り、理科の目標との関係性を考える。
		復習	配布したプリントを見直し、関連する演習問題を解く。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70860	後期	6	2
授業科目名	理科教育法Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Instructional Methods in School Science II			中村(文)研究室(3号館1階) e-mail: fumihiko@kurume-it.ac.jp 井出研究室(3号館1階) e-mail: idejy@kurume-it.ac.jp 中村(美)研究室(3号館1階) e-mail: misanaka@kurume-it.ac.jp 野田研究室(図書館1階) e-mail: noda@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
井出純哉		中村文彦・井出純哉・中村美紗・野田常雄(授業形態:複数)			
使用テキスト					
『中学校学習指導要領解説・理科編』文部科学省編(大日本図書)(2008年9月) 『高等学校学習指導要領解説・理科編理数編』文部科学省編(実教出版)(2009年12月)およびプリント配布					
授業の概要					
本科目では、中学・高校の理科の授業で行なう観察、実験、教育機器の活用について演習形式で検討する。また理科の指導において必要な図の作成演習も行なう。その際、学習指導要領を適宜参照する。					
到達目標					
(1) 理科の授業で行なう観察、実験、教育機器の活用等ができる。 (2) 理科の授業における実践的教育力を身につける。 (3) 理科授業を行なう際に必要な図の作成能力を身につける。					
履修上の注意					
毎回の演習後においては、理解したこと・考えたことをレポートにまとめてもらう。					
成績評価の方法・基準					
毎回のレポート 30%、図の作成演習 30%、期末テスト 40%					
課題に対するフィードバック					
レポート等は講義最終回までに添削して返却する。					
参考図書	中学校理科、高等学校理科(物理基礎、物理、化学基礎、化学、生物基礎、生物、地学基礎、地学)教科書				
関連科目	理科教育法Ⅰ → 理科教育法Ⅱ → 理科教育法Ⅲ → 理科教育法Ⅳ				
学位授与の方針との関連	技能・表現 (7) 言語力、コミュニケーション力およびプレゼンテーション力等の技能を身につけ、社会の多様な人々と協働することができる。また、理科や数学のふしぎさ・面白さを説明でき、研究成果などを表現・発信できる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	理科における観察・実験の意義(1) 物理における意義、化学における意義	予習	指定した予習用資料を読んでおく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(2)	理科における観察・実験の意義(2) 生物における意義、地学における意義	予習	指定した予習用資料を読んでおく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(3)	理科における観察・実験の方法(1) 物理における実験	予習	指定した予習用資料を読んでおく。
		復習	生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。
(4)	理科における観察・実験の方法(2) 化学における実験	予習	指定した予習用資料を読んでおく。
		復習	生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。
(5)	理科における観察・実験の方法(3) 生物における実験	予習	指定した予習用資料を読んでおく。
		復習	生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。
(6)	理科における観察・実験の方法(4) 地学における実験	予習	指定した予習用資料を読んでおく。
		復習	生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。
(7)	理科における教育機器の活用(1) 物理における教育機器の活用	予習	指定した予習用資料を読んでおく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(8)	理科における教育機器の活用(2) 化学における教育機器の活用	予習	指定した予習用資料を読んでおく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(9)	理科における教育機器の活用(3) 生物における教育機器の活用	予習	指定した予習用資料を読んでおく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(10)	理科における教育機器の活用(4) 地学における教育機器の活用	予習	指定した予習用資料を読んでおく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(11)	理科における図の作成演習(1) 物理における図の作成演習	予習	指定した予習用資料を読み、課題を解く。
		復習	生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。

(12)	理科における図の作成演習(2) 化学における図の作成演習	予習	指定した予習用資料を読み、課題を解く。
		復習	生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。
(13)	理科における図の作成演習(3) 生物における図の作成演習	予習	指定した予習用資料を読み、課題を解く。
		復習	生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。
(14)	理科における図の作成演習(4) 地学における図の作成演習	予習	指定した予習用資料を読み、課題を解く。
		復習	生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。
(15)	総まとめ 授業内容を振り返る	予習	授業内容を振り返り、理科の目標との関係性を考える。
		復習	配布したプリントを見直し、関連する演習問題を解く。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70870	前期	7	2
授業科目名	理 科 教 育 法 III			学習相談	
英字科目名	Instructional Methods in School Science III			3 号館 1 階 中村文彦 / 物理実験室 e-mail: fumihiko@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
中村文彦		中村文彦・中村美紗・巨海玄道・野田常雄			
使用テキスト					
『中学校学習指導要領解説・理科編』文部科学省編(大日本図書) (2008 年 9 月) 『高等学校学習指導要領解説・理科編理数編』文部科学省編(実教出版) (2009 年 12 月) およびプリント配布					
授業の概要					
本科目では、中学・高等学校の理科（特に中学理科第 1 分野）で必要な知識・技能 を、『学習指導要領』とともに検討する。次に、その各領域について、学習指導案の 作成および模擬授業・模擬実験を行なう。					
到達目標					
(1)中学理科の学習指導要領の目標と第 1 分野の内容を理解できる (2)実際の指導法に習熟し、実験や第 1 分野の教材開発などができる (3)模擬授業・模擬実験を行うことができる					
履修上の注意					
中学理科の第 1 分野について、自分の理解を深める姿勢で学習指導案の作成・模擬 授業に取り組むこと。 中学理科の教科書をよく読んでおくこと。					
成績評価の方法・基準					
学習指導案 30%、模擬授業 30%、期末テスト 40%					
課題に対するフィードバック					
模擬授業は他の学生と内容に関して議論を行う。					
参考図書	中学理科教科書（大日本図書など）				
関連科目	理科教育法 II → 理科教育法 III → 理科教育法 IV				
学位授与の方針との関連	技能・表現 (8) 教育分野の総合的な視点と知識を身につけ、多様化する現代社会の諸問題や課題を分析するための知識・技能、情報発信力を有し、地域社会や国際社会の新しい多様な文化や生活の創造、教育界の発展に貢献することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	中学理科の概要と目標 □探求の意欲 □観察と実験 □科学的思考	予習	理科教育法Ⅰ・Ⅱで学修した内容を見直しておくこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(2)	身近な物理現象(1) □光と音	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(3)	身近な物理現象(2) □力と圧力	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(4)	身の回りの物質(1) □物質のすがた □水溶液	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(5)	身の回りの物質(2) □状態変化	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(6)	電流とその利用(1) □電流	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(7)	電流とその利用(2) □電流と磁界	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(8)	化学変化と原子・分子 □物質の成り立ち □化学変化 □化学変化と物質の質量	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する

(9)	運動とエネルギー □運動の規則性 □力学的エネルギー	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(10)	化学変化とイオン □水溶液とイオン □酸・アルカリとイオン	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(11)	科学技術と人間 □エネルギー □科学技術の発展	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(12)	模擬授業(1) □学習指導案作成 □分かりやすい授業のための説明	予習	模擬授業の準備
		復習	模擬授業の反省、振り返り
(13)	模擬授業(2) □学習指導案作成 □分かりやすい授業のための板書	予習	模擬授業の準備
		復習	模擬授業の反省、振り返り
(14)	模擬授業(3) □学習指導案作成 □分かりやすい授業のための発問	予習	模擬授業の準備
		復習	模擬授業の反省、振り返り
(15)	総まとめ □ふりかえり	予習	講義内容の復習
		復習	講義内容の復習

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70880	後期	8	2
授業科目名	理科教育法 IV			学習相談	
英字科目名	Instructional Methods in School Science IV			3号館1階 井出研究室 e-mail: idejy@cc.kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
中村文彦		井出純哉・巨海玄道・中村文彦・野田常雄			
使用テキスト					
『中学校学習指導要領解説・理科編』文部科学省編(大日本図書)(2008年9月) 『高等学校学習指導要領解説・理科編理数編』文部科学省編(実教出版)(2009年12月) およびプリント配布					
授業の概要					
本科目では、中学・高等学校の理科(特に中学理科第2分野)で必要な知識・技能を、『学習指導要領』とともに検討する。次に、その各領域について、学習指導案の作成および模擬授業・模擬実験を行う。					
到達目標					
(1)中学理科の学習指導要領の目標が理解できる (2)実際の指導法に習熟し、観察や第2分野の教材開発などができる (3)模擬授業・模擬観察指導・実験指導が行うことができる					
履修上の注意					
中学理科の第2分野について、自分の理解を深める姿勢で学習指導案の作成・模擬授業に取り組むこと。 中学理科の教科書をよく読んでおくこと。					
成績評価の方法・基準					
学習指導案 30%、模擬授業 30%、期末テスト 40%					
課題に対するフィードバック					
模擬授業は他の学生と内容に関して議論を行う。					
参考図書	中学理科教科書(大日本図書など)				
関連科目	理科教育法 III → 理科教育法 IV				
学位授与の方針との関連	技能・表現 (8) 教育分野の総合的な視点と知識を身につけ、多様化する現代社会の諸問題や課題を分析するための知識・技能、情報発信力を有し、地域社会や国際社会の新しい多様な文化や生活の創造、教育界の発展に貢献することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	中学理科第2分野の概要と目標□探求の意欲 □観察と実験 □科学的思考 □生命の尊重	予習	理科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学修した内容を見直しておくこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(2)	植物の生活と種類(1) □生物の観察 □植物の体のつくりと働き	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(3)	植物の生活と種類(2) □植物の仲間	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(4)	大地の成り立ちと変化 □火山と地震 □地層の重なりと過去の様子	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(5)	動物の生活と生物の変遷(1) □生物と細胞 □動物の体のつくりと働き	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(6)	動物の生活と生物の変遷(2) □動物の仲間 □生物の変遷と進化	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(7)	気象とその変化 □気象観測 □天気の変化 □日本の気象	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(8)	生命の連続性 □生物の成長と殖え方 □遺伝の規則性と遺伝子	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する

(9)	地球と宇宙 □天体の動きと地球の自転・公転 □太陽系と恒星	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(10)	自然と人間(1) □生物と環境 □自然の恵みと災害	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(11)	自然と人間(2) □自然環境の保全と科学技術の利用	予習	学習指導要領や教科書等の該当箇所をよく読み、理解の足りないところ等を見出すこと
		復習	授業の中で指示された課題の整理、授業方法をよく理解する
(12)	模擬授業(1) □学習指導案作成 □分かりやすい授業のための説明	予習	模擬授業の準備
		復習	模擬授業の反省、振り返り
(13)	模擬授業(2) □学習指導案作成 □分かりやすい授業のための板書	予習	模擬授業の準備
		復習	模擬授業の反省、振り返り
(14)	模擬授業(3) □学習指導案作成 □分かりやすい授業のための発問	予習	模擬授業の準備
		復習	模擬授業の反省、振り返り
(15)	総まとめ □ふりかえり	予習	講義内容の復習
		復習	講義内容の復習

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70890	前期	5	2
授業科目名	数学科教育法 I			学習相談	
英字科目名	Instructional Methods in Mathematics I			3 号館 1 階 渋谷研究室 e-mail: siburani@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
渋谷 憲政		渋谷 憲政 (Norimasa SHIBUTANI)			
使用テキスト					
『高等学校学習指導要領解説・数学編・理数編』（文部科学省） およびプリント配布					
授業の概要					
高等学校の学習指導要領を読み、特に数学 I、数学 II の内容とその教育方法を学習します。社会生活と数学の関係の具体例を挙げてもらい、教材開発の一助とします。生徒が間違いやすい例も多く挙げ、授業実習に活かします。後半では学習指導案を作成し、実際に模擬授業を各人に行なってもらいます。その後、質疑応答を行ない、模擬授業を改善していきます。					
到達目標					
(1) 高等学校学習指導要領をよく読み、数学科の目標が理解できるようになる。 (2) 高等学校学習指導要領の内容が理解できるようになる。 (3) 自分で学習指導案が作成できるようになる。					
履修上の注意					
模擬授業実習では事前の十分な準備が必要です。					
成績評価の方法・基準					
模擬授業実習 50%、期末テスト 50%で総合評価					
課題に対するフィードバック					
講義中に出した課題や演習問題は最終講義までにフィードバックする。					
参考図書	高等学校数学教科書、数学 I、数学 A、数学 II、数学 B、数学 III				
関連科目	数学科教育法 I → 数学科教育法 II				
学位授与の方針との関連	思考・判断 (3) 学修した基礎的・基盤的な知識・技能を活用し、①授業法の実践研究、②ものづくりを生かした教材研究、③理科・数学の専門的研究に取り組むことで思考・議論・判断の方法を身につけ、未解明の課題を解決できる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	『高等学校学習指導要領 数学』のアウトライン 数学科の目標	予習	高等学校指導要領 pp.16～17 を読んで予習する。
		復習	数学科の目標をノートにまとめる。
(2)	数学Ⅰ「数と式」 数と集合、式	予習	高等学校指導要領 pp.19～21 を読んで予習する。
		復習	指導方法を工夫する。
(3)	「図形と計量」 三角比、図形の計量	予習	高等学校指導要領 pp.22～23 を読んで予習する。
		復習	指導方法を工夫する。
(4)	「二次関数」 二次関数とそのグラフ、二次関数の値の変化	予習	高等学校指導要領 pp.23～24 を読んで予習する。
		復習	指導方法を工夫する。
(5)	「データの分析」 四分位数、箱ひげ図	予習	高等学校指導要領 pp.25～27 を読んで予習する。
		復習	四分位数、箱ひげ図は新カリキュラムであるので、より深く学習する。
(6)	数学Ⅱ「いろいろな式」 式と証明、高次方程式	予習	高等学校指導要領 pp.28～30 を読んで予習する。
		復習	指導方法を工夫する。
(7)	「図形と方程式」 直線と円、軌跡と領域	予習	高等学校指導要領 pp.30～31 を読んで予習する。
		復習	指導方法を工夫する。
(8)	「指数関数・対数関数」 指数関数、対数関数	予習	高等学校指導要領 pp.31～33 を読んで予習する。
		復習	指導方法を工夫する。
(9)	「三角関数」 角の拡張、三角関数、三角関数の加法定理	予習	高等学校指導要領 pp.33～34 を読んで予習する。
		復習	指導方法を工夫する。
(10)	「微分・積分の考え」 微分の考え、積分の考え	予習	高等学校指導要領 pp.34～35 を読んで予習する。
		復習	指導方法を工夫する。
(11)	学習指導案の作成 指導観、目標、計画、主眼、準備、評価基準、本時過程	予習	指導案を書く。
		復習	指導案を修正する。

(12)	模擬授業実習（１） 学習活動・内容、説明の留意点	予習	指導案を基に模擬授業の準備をする。
		復習	指摘された反省点等をまとめる。
(13)	模擬授業実習（２） 学習活動・内容、発問の留意点	予習	指導案を基に模擬授業の準備をする。
		復習	指摘された反省点等をまとめる。
(14)	模擬授業実習（３） 学習活動・内容、板書の留意点	予習	指導案を基に模擬授業の準備をする。
		復習	指摘された反省点等をまとめる。
(15)	模擬授業実習（４） 学習活動・内容、板書の留意点	予習	指導案を基に模擬授業の準備をする。
		復習	反省点等をまとめる。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70900	後期	6	2
授業科目名	数学科教育法 II			学習相談	
英字科目名	Instructional Methods in Mathematics II			3 号館 1 階 渋谷研究室 e-mail: sibutani@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
渋谷 憲政		渋谷 憲政 (Norimasa SHIBUTANI)			
使用テキスト					
『高等学校学習指導要領解説・数学編・理数編』（文部科学省） およびプリント配布					
授業の概要					
数学科教育法 I に引き続き、特に数学Ⅲ、数学 A、数学 B、数学活用の内容とその教育方法を学習します。社会生活と数学の関係の具体例を挙げてもらい、教材開発の一助とします。生徒が間違いやすい例も多く挙げ、授業実習に活かします。後半では高等学校の学習指導案を作成し、実際に模擬授業を各人に行なってもらいます。その後、質疑応答を行ない、模擬授業を改善していきます。					
到達目標					
(1) 高等学校数学科の指導方法とその内容が理解できるようになる。 (2) 学習指導案の作成が十分できるようになる。 (3) 指導案を基にして模擬授業を充実させていくことができる。					
履修上の注意					
模擬授業実習では事前の十分な準備が必要です。					
成績評価の方法・基準					
模擬授業実習 50%、期末テスト 50%で総合評価					
課題に対するフィードバック					
講義中に出した課題や演習問題は最終講義までにフィードバックする。					
参考図書	高等学校数学教科書、数学 I、数学 A、数学 II、数学 B、数学 III				
関連科目	数学科教育法 I → 数学科教育法 II				
学位授与の方針との関連	思考・判断 (3) 学修した基礎的・基盤的な知識・技能を活用し、①授業法の実践研究、②ものづくりを生かした教材研究、③理科・数学の専門的研究に取り組むことで思考・議論・判断の方法を身につけ、未解明の課題を解決できる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	数学Ⅲ「平面上の曲線と複素数平面」 平面上の曲線、複素数平面	予習	高等学校指導要領 pp.37～39 を読んで予習する。
		復習	生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。
(2)	数学Ⅲ「極限」 数列とその極限、関数とその極限	予習	高等学校指導要領 pp.39～40 を読んで予習する。
		復習	生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。
(3)	数学Ⅲ「微分法」 導関数、導関数の応用	予習	高等学校指導要領 pp.41～42 を読んで予習する。
		復習	より適切な指導方法を考える。
(4)	数学Ⅲ「積分法」 不定積分と定積分、積分の応用	予習	高等学校指導要領 pp.42～44 を読んで予習する。
		復習	より適切な指導方法を考える。
(5)	数学A「場合の数と確率」 場合の数、確率	予習	高等学校指導要領 pp.46～48 を読んで予習する。
		復習	より適切な指導方法を考える。
(6)	数学A「整数の性質」 約数と倍数、ユークリッドの互除法、合同式	予習	高等学校指導要領 pp.48～49 を読んで予習する。
		復習	ユークリッドの互除法、合同式は新カリキュラムであるので、より深く学習する。
(7)	数学A「図形の性質」 平面図形、空間図形	予習	高等学校指導要領 pp.49～51 を読んで予習する。
		復習	より適切な指導方法を考える。
(8)	数学B「確率分布と統計的な推測」 確率分布、正規分布、統計的な推測	予習	高等学校指導要領 pp.53～55 を読んで予習する。
		復習	より適切な指導方法を考える。
(9)	数学B「数列」 数列とその和、漸化式と数学的帰納法	予習	高等学校指導要領 pp.55～56 を読んで予習する。
		復習	より適切な指導方法を考える。
(10)	数学B「ベクトル」 平面上のベクトル、空間座標とベクトル	予習	高等学校指導要領 pp.57～58 を読んで予習する。
		復習	より適切な指導方法を考える。

(11)	数学活用 数学と人間の活動、社会生活における 数理的な考察	予習	高等学校指導要領 pp.59～65 を読んで 予習する。
		復習	より適切な指導方法を考える。
(12)	学習指導案の作成 指導観、目標、計画、主眼、評価基準、 準備、本時過程	予習	指導案を書く。
		復習	指導案を修正する。
(13)	模擬授業実習（1） 学習活動・内容、説明と発問の留意 点	予習	指導案を基に模擬授業の準備をする。
		復習	指摘された反省点等をまとめる。
(14)	模擬授業実習（2） 学習活動・内容、板書の留意点	予習	指導案を基に模擬授業の準備をする。
		復習	他の学生から指摘された反省点等をま とめる。
(15)	模擬授業実習（3） 学習活動・内容、板書の留意点	予習	指導案を基に模擬授業の準備をする。
		復習	反省点等をまとめる。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70910	前期	7	2
授業科目名	数学科教育法 III			学習相談	
英字科目名	Instructional Methods in Mathematics III			3 号館 1 階 渋谷研究室 e-mail: siburani@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
渋谷 憲政		渋谷 憲政 (Norimasa SHIBUTANI)			
使用テキスト					
『中学校学習指導要領解説・数学編』（文部科学省） およびプリント配布					
授業の概要					
中学校数学科の内容の骨格について、数学史を織り交ぜながら講義をします。中学校における内容は大学における代数、幾何、解析、確率統計などの流れの中にあり、それらの中心となる概念を理解します。また、数学教育の目的と方法を学習し、中学校学習指導要領を読み、その詳細を理解します。					
到達目標					
(1) 中学校学習指導要領をよく読み、数学科の目標が理解できるようになる。 (2) 中学校学習指導要領の内容が理解できるようになる。 (3) 数学的活動の具体例を理解し、各自でその具体例がつかれるようになる。					
履修上の注意					
模擬授業実習では事前の十分な準備が必要です。					
成績評価の方法・基準					
模擬授業実習・演習 50%、期末テスト 50%で総合評価					
課題に対するフィードバック					
講義中に出した課題や演習問題は最終講義までにフィードバックする。					
参考図書	中学校数学教科書				
関連科目	数学科教育法Ⅱ → 数学科教育法Ⅲ				
学位授与の方針との関連	思考・判断 (3) 学修した基礎的・基盤的な知識・技能を活用し、①授業法の実践研究、②ものづくりを生かした教材研究、③理科・数学の専門的研究に取り組むことで思考・議論・判断の方法を身につけ、未解明の課題を解決できる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	数の体系 数の拡張、体とその例	予習	中学校指導要領 p.27 を読んで予習する。
		復習	生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。
(2)	文字を用いた式 量、数、文字式	予習	中学校指導要領 p.28 を読んで予習する。
		復習	生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。
(3)	数学史 エジプト、バビロニアにおける数学、 黄金比	予習	数学の歴史を調べる。
		復習	自分で興味をもった数学の歴史をまとめる。
(4)	ユークリッド原論 中学校における幾何の証明	予習	ユークリッド原論を読んでみる。
		復習	自分が興味をもったユークリッド原論の一部をまとめる。
(5)	類推と一般化 帰納法と演繹法	予習	指導要領 pp.94～97 を読んで予習する。
		復習	証明の意味を考える。
(6)	関数 関数の概念、表、式、グラフ	予習	中学校指導要領 pp.98～100 を読んで予習する。
		復習	表、式、グラフを各自で作成してみる。
(7)	不確定な事象 代表値、確率	予習	中学校指導要領 p.28 を読んで予習する。
		復習	不確定な事象と日常生活との関係を考える。
(8)	数学教育の目的と方法（1） 教科の目標	予習	中学校指導要領 p.153 を読んで予習する。
		復習	数学科の目標をノートに何度も書き、覚える。
(9)	数学教育の目的と方法（2） 各学年の目標とその内容	予習	中学校指導要領の各学年の目標とその内容を読んで予習する。
		復習	授業内容の学年間のつながりを考える。
(10)	数学教育の目的と方法（3） 各学年の内容	予習	中学校指導要領の各学年の内容をを読んで予習する。
		復習	第何学年で何を教えるのかを把握する。
(11)	数学教育の目的と方法（4） 数学的活動	予習	中学校指導要領の数学的活動(第1学年～第3学年)をを読んで予習する。
		復習	数学的活動の具体例を考える。

(12)	『中学校学習指導要領』の内容 数学のよさ	予習	中学校指導要領 p.18 を読んで予習する。
		復習	数学のよさの4項目をまとめる。
(13)	『中学校学習指導要領』の内容 数学的活動の具体例を基に模擬授業をする。(第1学年)	予習	中学校指導要領 pp.81～86 を読んで予習する。
		復習	他の学生から指摘された反省点等をまとめる。
(14)	『中学校学習指導要領』の内容 数学的活動の具体例を基に模擬授業をする。(第2学年)	予習	中学校指導要領 pp.103～107 を読んで予習する。
		復習	他の学生から指摘された反省点等をまとめる。
(15)	『中学校学習指導要領』の内容 数学的活動の具体例を基に模擬授業をする。(第3学年)	予習	中学校指導要領 pp.129～132 を読んで予習する。
		復習	生徒が授業に参加できていたか等反省点等をまとめる。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70920	後期	8	2
授業科目名	数学科教育法Ⅳ			学習相談	
英字科目名	Instructional Methods in MathematicsⅣ			3号館1階 渋谷研究室	e-mail: siburani@kurume-it.ac.jp
代表教員名		担当教員名			
渋谷 憲政		渋谷 憲政（Norimasa SHIBUTANI）			
使用テキスト					
『中学校学習指導要領解説・数学編』（文部科学省） およびプリント配布					
授業の概要					
中学校数学の内容とその教育方法を学習指導要領に即しながら学習します。社会生活と数学の関係の具体例を挙げてもらい、教材開発の一助とします。生徒が間違いやすい例も多数挙げ、授業実習に活かします。後半では中学校の学習指導案を作成し、実際に模擬授業を各人に行なってもらいます。その後、質疑応答を行ない、模擬授業を改善していきます。					
到達目標					
(1) 中学校数学科の指導方法とその内容が理解できるようになる。 (2) 学習指導案の作成が十分できるようになる。 (3) 指導案を基にして模擬授業の内容を充実させていくことができる。					
履修上の注意					
模擬授業実習では事前の十分な準備が必要です。					
成績評価の方法・基準					
模擬授業実習・演習 50%、期末テスト 50%で総合評価					
課題に対するフィードバック					
講義中に出した課題や演習問題は最終講義までにフィードバックする。					
参考図書	中学校数学教科書				
関連科目	数学科教育法Ⅲ → 数学科教育法Ⅳ				
学位授与の方針との関連	思考・判断 (3) 学修した基礎的・基盤的な知識・技能を活用し、①授業法の実践研究、②ものづくりを生かした教材研究、③理科・数学の専門的研究に取り組むことで思考・議論・判断の方法を身につけ、未解明の課題を解決できる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	中学校数学科各学年の目標及び内容 第1学年「数と式」	予習	マイナス×マイナス＝プラス の指導方法を考える
		復習	文字式など生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。
(2)	中学校数学科各学年の目標及び内容 第1学年「図形」 空間図形、図形の計量	予習	中学校指導要領 pp.64～72 を読んで予習する。
		復習	ねじれの位置など生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。
(3)	中学校数学科各学年の目標及び内容 第2学年「図形」	予習	中学校指導要領 pp.91～97 を読んで予習する。
		復習	証明など生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。
(4)	中学校数学科各学年の目標及び内容 全学年「資料の活用」 代表値、ヒストグラム、確率、標本調査	予習	中学校指導要領「資料の活用」(第1学年～第3学年) を読んで予習する。
		復習	ヒストグラムなど生徒が理解し難い点を理解し、より適切な指導方法を考える。
(5)	『中学校学習指導要領』の内容 学び直しの機会	予習	中学校指導要領 pp.133～134 を読んで予習する。
		復習	学び直しの機会の意味を考える。
(6)	『中学校学習指導要領』の内容 課題学習	予習	中学校指導要領 pp.140～142 を読んで予習する。
		復習	課題学習の具体例を作成する。課題学習の目的、内容を整理する。
(7)	『中学校学習指導要領』の内容 指導計画の作成と内容の取扱い	予習	中学校指導要領 pp.133～142 を読んで予習する。
		復習	指導計画の作成と内容の取扱いを整理する。
(8)	つまづきの原因(1) つまづきの具体例を作成する	予習	つまづきの具体例を作成する。
		復習	より適切な指導方法を考える。
(9)	つまづきの原因(2) つまづきの具体例を作成する	予習	つまづきの具体例を作成する。
		復習	より適切な指導方法を考える。
(10)	つまづきへの支援(1) つまづきへの支援の具体例を作成する	予習	つまづきへの支援の具体例を作成する。
		復習	実践に活かせるように工夫する。

(11)	つまづきへの支援（２） つまづきへの支援の具体例を作成する	予習	つまづきへの支援の具体例を作成する。
		復習	実践に活かせるように工夫する。
(12)	学習指導案の作成 指導観、目標、計画、主眼、評価基準、 準備、本時過程	予習	中学校の学習指導案を書く。
		復習	指導案を修正する。
(13)	模擬授業実習（１） 学習活動・内容、説明と発問の留意 点	予習	中学校の学習指導案を基に模擬授業の 準備をする。
		復習	他の学生から指摘された反省点等をま とめる。
(14)	模擬授業実習（２） 学習活動・内容、板書の留意点	予習	指導案を基に模擬授業の準備をする。
		復習	指摘された反省点等をまとめる。
(15)	模擬授業実習（３） 学習活動・内容、板書の留意点	予習	指導案を基に模擬授業の準備をする。
		復習	反省点等をまとめる。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70660	後期	6	2
授業科目名	工業科教育法Ⅰ			学習相談	
英字科目名	I n s t r u c t i o n a l M e t h o d s i n E n g i n e e r i n g I			授業終了後、必要に応じ担当教員に相談すること。	
代表教員名		担当教員名			
田中廣茂 (Hiroshige TANAKA)		田中廣茂 (Hiroshige TANAKA)			
使用テキスト					
『高等学校学習指導要領・第3章 第2節 工業』（2012年3月）、および資料配布。					
授業の概要					
学習指導要領に従い、工業の意義、指導内容、内容の取扱い、教材選定、教科指導法について研究を進め、授業実践に必要な学習指導案の作成や教材研究および指導法と評価法を体験的に学び、工業に関する科目を指導するための実践的な知識とスキルを身につける。					
到達目標					
(1) 教科「工業」の科目構成の内容と編成を説明できる。 (2) 指導内容と教材、教具を用いた教育技術の構成を説明できる。 (3) 学習指導案の機能を説明し、作成できる。 (4) 授業評価の考え方と評価法を説明できる。					
履修上の注意					
・ガイダンスの欠席者（公欠、病気等の特別な理由がある者を除く）は、以後の受講を認めない。 ・将来教職を目指す者として相応しい受講態度が望まれる。 ・授業終了時のリアクションシート提出をもって出席とみなす。 ・出席回数を重視する。欠席は3回まで。(4回以上の欠席は失格)					
成績評価の方法・基準					
模擬授業（30％）、学習指導案（30％）、リアクションシート（40％）で総合評価。					
課題に対するフィードバック					
リアクションシート等示された内容については、必要に応じて最終講義までにフィードバックする。					
参考図書	「教職必修 工業科・技術科教育法」 教職課程研究会 編著者代表 山下省蔵 実教出版				
関連科目	工業科教育法Ⅰ → 工業科教育法Ⅱ				
学位授与の方針との関連					

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	ガイダンス 学習指導要領における工業教育（１） □工業教育の意義と役割①	予習	学習指導要領「工業」の目標について調べる。
		復習	学習内容で扱った工業教育の意義と役割についてまとめる。
(2)	学習指導要領における工業教育（２） □工業教育の意義と役割②	予習	工業教育の意義と役割について情報を集める。
		復習	学習内容で扱った工業教育の意義と役割についてまとめる。
(3)	学習指導要領の解説 1 □学習指導要領改訂の経緯	予習	学習指導要領改訂の経緯について調べる。
		復習	学習内容で扱った学習指導要領改訂の経緯についてまとめる。
(4)	学習指導要領の解説 2 □学習指導要領改訂の趣旨	予習	学習指導要領改訂の趣旨について調べる。
		復習	学習内容で扱った学習指導要領改訂の趣旨をまとめる。
(5)	学習指導要領の解説 3 □工業高校の教育目標と内容	予習	工業高校の教育目標と内容について調べる。
		復習	学習内容で扱った工業高校の教育目標と内容についてまとめる。
(6)	学習指導案の作成 1 □指導案の形式、構成要素、留意点	予習	学習指導案の作成事例について調べる。
		復習	学習指導案の形式、構成要素、留意点についてまとめる。
(7)	学習指導案の作成 2 □模擬授業計画 □学習指導案の作成	予習	学習指導案を作成する。
		復習	学習指導案作成及び教材、教具を構想する。
(8)	充実した授業の展開 1 □授業のデザインと指導技術	予習	学習指導案における「授業の展開」を作成する。
		復習	学習指導案及び教材、教具を作成する。
(9)	充実した授業の展開 2 □授業展開する上で、授業を決定する様々な要素	予習	学習指導案における「授業の展開」を作成する。
		復習	学習指導案及び教材、教具を作成する。
(10)	模擬授業の実践 1 □学習指導案に沿った模擬授業を実践し、相互評価と研究協議を行う	予習	教材研究及び模擬授業の事前準備を行う。
		復習	研究協議での指摘事項を研究し以後の実践に活かす。

(11)	模擬授業の実践 2 □学習指導案に沿った模擬授業を実践し、相互評価と研究協議を行う	予習	教材研究及び模擬授業の事前準備を行う。
		復習	研究協議での指摘事項を研究し以後の実践に活かす。
(12)	模擬授業の実践 3 □学習指導案に沿った模擬授業を実践し、相互評価と研究協議を行う	予習	教材研究及び模擬授業の事前準備を行う。
		復習	研究協議での指摘事項を研究し以後の実践に活かす。
(13)	模擬授業の実践 4 □学習指導案に沿った模擬授業を実践し、相互評価と研究協議を行う	予習	教材研究及び模擬授業の事前準備を行う。
		復習	研究協議での指摘事項を研究し以後の実践に活かす。
(14)	模擬授業の実践 5 □学習指導案に沿った模擬授業を実践し、相互評価と研究協議を行う	予習	教材研究及び模擬授業の事前準備を行う。
		復習	研究協議での指摘事項を研究し以後の実践に活かす。
(15)	まとめ □模擬授業の自己評価と授業改善	予習	模擬授業の自己評価及び授業改善の方策を研究する。
		復習	学習指導要領の趣旨に沿った工業教育の在り方をまとめる。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70670	後期集中	6	1
授業科目名	工業科教育法Ⅱ			学習相談	
英字科目名	I n s t r u c t i o n a l M e t h o d s i n E n g i n e e r i n g Ⅱ			授業終了後、必要に応じ担当教員に相談すること。	
代表教員名		担当教員名			
田中廣茂 (Hiroshige TANAKA)		田中廣茂 (Hiroshige TANAKA)			
使用テキスト					
プリント配布					
授業の概要					
高等学校における工業の教師として、工業教育に関する基本的な知識、技術の習得を目指して、工業科教育の果たすべき役割の重要性を認識するとともに、工業科教育の歴史、教育目的、教育内容、教育方法について学習する。工業科教育の性格や内容等の特徴を明らかにしつつ、工業科教育の担い手としての資質や能力を身につける。 なお、教育スピーチ及び計画的に教育課題レポートを課する。					
到達目標					
(１) 教科「工業」に関する授業実践能力の基礎・基本を身につける。 (２) 工業・技術教育を概観し、工業高等学校の現状と課題を説明できる。 (３) 高等学校学習指導要領の趣旨に基づき、工業科の目標、内容、指導法などを説明できる。 (４) 授業の構成要素と構造が説明でき、授業計画としての教育課程、年間指導計画、学習指導案について説明できる。					
履修上の注意					
・ガイダンスの欠席者（公欠、病気等の特別な理由がある者を除く）は、以後の受講を認めない。 ・将来教職を目指す者として相応しい受講態度が望まれる。 ・授業終了時のリアクションシート提出をもって出席とみなす。 ・出席回数を重視する。欠席は２回まで。（３回以上の欠席は失格）					
成績評価の方法・基準					
教育課題レポート（４０％）、教育スピーチ（２０％、リアクションシート（４０％）で総合評価。					
課題に対するフィードバック					
リアクションシート等に表示された内容については、必要に応じて最終講義までにフィードバックする。					
参考図書	特に指定しない（必要に応じて資料配付と参考書紹介を行う）				
関連科目	工業科教育法Ⅰ → 工業科教育法Ⅱ → 工業科教育法Ⅲ				
学位授与の方針との関連					

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	ガイダンス 学校教育と教師の役割 □学校教育 の機能とその使命	予習	教師の役割と学校教育の機能について調べる。
		復習	学校教育と教師の役割についてまとめる。
(2)	工業教育の歴史 □戦前・戦後	予習	学校制度及び工業高校の歴史を調べる。
		復習	工業教育の歴史をまとめる。
(3)	徒弟制度と学校教育 □職人の世界 に工業教育を考える	予習	徒弟制度とは？ 職人の世界とは？ 具体的な事例を調べる。
		復習	徒弟制度と学校教育をまとめる。
(4)	工業教育の意義と役割 □工業高校へ の期待	予習	工業教育の意義・役割について具体的な 内容を調べる。
		復習	工業教育の意義と役割をまとめる。
(5)	実験・実習の指導 □準備と安全指導、 実技指導、評価法	予習	工業高校における実習の実施内容・形態 等について調べる。
		復習	実験・実習の指導についてまとめる。
(6)	工業教育の現状と課題1 □生徒、 保護者、その他	予習	工業高校における生徒等の現状及び課 題について調べる。
		復習	工業教育における、生徒及び保護者との 関係をまとめる。
(7)	工業教育の現状と課題2 □資格取得、 ものづくり教育	予習	工業高校における資格取得及びものづ くり教育の現状について調べる。
		復習	工業高校の資格取得、ものづくり指導の 現状をまとめる。
(8)	工業教育の現状と課題3 □キャリ ア教育、アクティブラーニング まとめ	予習	キャリア教育とは？ アクティブラー ニングとは？ 具体的な事例を調べる。
		復習	工業科教育法Ⅱの学習内容をまとめる。
(9)		予習	
		復習	
(10)		予習	
		復習	
(11)		予習	
		復習	
(12)		予習	
		復習	

(13)		予習	
		復習	
(14)		予習	
		復習	
(15)		予習	
		復習	

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70680	後期集中	6	1
授業科目名	工業科教育法Ⅲ			学習相談	
英字科目名	I nstructional Methods in Engineering Ⅲ			授業終了後、必要に応じ担当教員に相談すること。	
代表教員名		担当教員名			
田 中 廣 茂 （ Hiroshige TANAKA）		田中廣茂（Hiroshige TANAKA）			
使用テキスト					
プリント配布					
授業の概要					
技術的な問題はいかにして生じ、その解決は具体的にどのような方法によって可能となるのかについて大系的に検討する。また科学と比較しながら、技術の方法の特質について検討する。					
到達目標					
（１）技術的な問題の解決法が理解できる。 （２）それにより、工業の教員として技術的問題の解決能力を生徒たちに養成できるようにする。 （３）技術の方法の特質を理解することで、技術の教育のポイントがどこにあるのかを理解できる。					
履修上の注意					
・ガイダンスの欠席者（公欠、病気等の特別な理由がある者を除く）は、以後の受講を認めない。 ・将来教職を目指す者として相応しい受講態度が望まれる。 ・授業終了時のリアクションシート提出をもって出席とみなす。 ・出席回数を重視する。欠席は２回まで。（３回以上の欠席は失格）					
成績評価の方法・基準					
毎回の授業の最後のリアクションシート（１００％）					
課題に対するフィードバック					
リアクションシート等示された内容については、必要に応じて最終講義までにフィードバックする。					
参考図書	唐津一『販売の科学』PHP 文庫 古味堯通『教育の展望』福村出版				
関連科目	工業科教育法Ⅱ → 工業科教育法Ⅲ				
学位授与の方針との関連					

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	ガイダンス 技術問題の発生 □状況と問題の発生	予習	身の回りの様々な技術的問題を調べる。
		復習	身の回りの問題解決を、授業内容をヒントにして試みる。
(2)	問題の生じる状況を把握する方法 □頭での理解 □状況を書き出しての理解	予習	身の回りの様々な問題の解決手法を調べる。
		復習	身の回りの問題解決を、授業内容をヒントにして試みる。
(3)	問題の検討(1) □思い込みと印象 □実験、調査、計算	予習	最近の報道事例から、具体的な技術的問題を調べる。
		復習	身の回りの問題解決を、授業内容をヒントにして試みる。
(4)	問題の検討(2) □問題の良否の検討 □可能・不可能の検討	予習	最近の報道事例から、具体的な技術的問題を調べる。
		復習	身の回りの問題解決を、授業内容をヒントにして試みる。
(5)	技術は応用科学か □応用科学という技術の捉え方	予習	技術とは？ 応用科学とは？ 具体事例について調べる。
		復習	身の回りの問題解決を、授業内容をヒントにして試みる。
(6)	技術の方法の特質 □科学を応用しない技術の方法	予習	技術の特質について調べる。
		復習	身の回りの問題解決を、授業内容をヒントにして試みる。
(7)	技術の教育 □技術的知識 □技術的知識に基づく実施体験の蓄積	予習	「技術的知識に基づく実施体験の蓄積」とは何かを調べる。
		復習	身の回りの問題解決を、授業内容をヒントにして試みる。
(8)	まとめ □全体の振り返りとまとめ	予習	毎回の授業内容をまとめる。
		復習	工業科教育法Ⅲの学習内容をまとめる。
(9)		予習	
		復習	
(10)		予習	
		復習	
(11)		予習	
		復習	
(12)		予習	

		復習	
(13)		予習	
		復習	
(14)		予習	
		復習	
(15)		予習	
		復習	

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70780	前期	1	2
授業科目名	道徳教育の理論と方法			学習相談	
英字科目名	Theory and Methods in Moral Education			堀研究室（6号館4階） e-mail: hori@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
堀 憲一郎（Kenichirou HORI）		堀 憲一郎（Kenichirou HORI）			
使用テキスト					
中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編					
授業の概要					
今日の日本の社会では、確固とした道徳観の欠如や家庭と地域社会の教育機能の低下といった問題が、道徳教育を行なう上での大きな障害となっている。本科目では、自分の道徳教育観を育てていくための基礎として、まず中学校学習指導要領の道徳の章を見る。ついで、道徳性がどのように発達していくのか、そのメカニズムと理論を概観する。さらに学校教育における道徳教育の実践を検討し、家庭や地域が道徳教育に果たす役割についても検討する。					
到達目標					
（１）教育現場での実践力を高める （２）学校が家庭、地域とどのように連携して道徳教育を行なっていけばよいかという視点を養う （３）道徳性の発達と道徳教育の関係性を理解する					
履修上の注意					
受講者同士のグループディスカッションへの積極的参加や、個々人の意見発表における積極性が強く求められる。本授業では、久留米工業大学 E キャンパスを利用するので、各自登録の上受講すること。					
成績評価の方法・基準					
毎回の課題提出や授業参加の積極性 30%、期末試験 70%					
課題に対するフィードバック					
原則として「久留米工業大学 E キャンパス」のシステムを利用して行う					
参考図書	授業時に紹介する				
関連科目	教職科目全般				
学位授与の方針との関連	（２）教科教育法や教育に関する基盤的な知識・技能や情報端末機器（ICT 機器）に関する知識・技能を修得し、活用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	中学校学習指導要領・ 特別の教科 道徳：目標・内容等について	予習	E キャンパスへの登録及びそこで示す概要、留意点をよく読み、理解して授業の準備をしておくこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(2)	道徳性とは何か：人間の行動と道徳性の理解	予習	E キャンパスを通して示す、道徳教育をめぐる課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(3)	道徳性の発達（1）：道徳性の発達に関する理論とメカニズムの理解	予習	E キャンパスを通して示す、道徳教育をめぐる課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(4)	道徳性の発達（2）：道徳性の発達に関する理論とメカニズムの理解	予習	E キャンパスを通して示す、道徳教育をめぐる課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(5)	道徳性の発達（3）：道徳性の発達に関する理論とメカニズムの理解	予習	E キャンパスを通して示す、道徳教育をめぐる課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(6)	文化と道徳：文化の多様性と道徳について	予習	E キャンパスを通して示す、道徳教育をめぐる課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(7)	中間確認まとめ：前半の内容の振り返りと理解の確認	予習	E キャンパスを通して示す、道徳教育をめぐる課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと

(8)	学校教育の中での道徳教育（1）：年間指導計画等の理解	予習	E キャンパスを通して示す、道徳教育をめぐる課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(9)	学校教育の中での道徳教育（2）：道徳の指導計画の作成と方法	予習	E キャンパスを通して示す、道徳教育をめぐる課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(10)	学校教育の中での道徳教育（3）：道徳科の授業実践例に学ぶ	予習	E キャンパスを通して示す、道徳教育をめぐる課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(11)	道徳と人権の理解（1）：人権と差別について	予習	E キャンパスを通して示す、道徳教育をめぐる課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(12)	道徳と人権の理解（2）：人権と差別について	予習	E キャンパスを通して示す、道徳教育をめぐる課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(13)	道徳教育に果たす家庭・地域の役割：教育的愛情、生活習慣、地域との連帯と教育力	予習	E キャンパスを通して示す、道徳教育をめぐる課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(14)	道徳教育の課題：今後の道徳教育の課題	予習	E キャンパスを通して示す、道徳教育をめぐる課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(15)	総まとめ：全体の振り返りと理解の確認	予習	E キャンパスを通して示す、道徳教育をめぐる課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70640	後期	6	2
授業科目名	教育方法論			学習相談	
英字科目名	Method of Education			堀研究室（6 号館 4 階） e-mail: hori@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
堀 憲 一 郎 （ Kenichirou HORI）		堀 憲一郎（Kenichirou HORI）			
使用テキスト					
久留米工業大学 E キャンパスにて配布する					
授業の概要					
授業実践における教育方法の背景にある基本的な理論や分析する際の視点を様々な授業実践事例や教育方法に関する研究知見を通して考察する。またその観点から、情報機器を用いた教育の方法や説明の技術についても検討する。					
到達目標					
（１）学習理論と教育方法について理解できる （２）学習者の特性の理解し、それに応じた教育方法を身につける （３）効果的な授業実践の具体例の特徴を理解し、理論的な知識を実践的な教育方法へ発展させていくことができる					
履修上の注意					
久留米工業大学 E キャンパスのシステムを利用するため、各自で登録の上、受講すること。					
成績評価の方法・基準					
授業中に指示する課題の提出、及び授業でのプレゼンテーション 80%、学期末に課す課題 20%で総合評価					
課題に対するフィードバック					
原則として「久留米工業大学 E キャンパス」のシステムを利用して行う					
参考図書	授業時に紹介する				
関連科目	教職科目全般				
学位授与の方針との関連	（２）教科教育法や教育に関する基盤的な知識・技能や情報端末機器（ICT 機器）に関する知識・技能を修得し、活用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	教育方法論とは：教育方法論についての概要理解	予習	シラバスをよく読み、授業の概要をよく理解した上で受講すること。E キャンパスへ登録の上、受講すること。
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(2)	授業過程を見る視点：行動主義，認知主義，状況論からの授業過程理解	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(3)	知識獲得とその方法(1)：知識獲得とは	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(4)	知識獲得とその方法(2)：構成主義的知識観と教育方法	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(5)	理科の授業過程の理解（1）：授業における学習者の認知プロセス	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(6)	理科の授業過程の理解（2）：科学的概念の理解を促す教育方法	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(7)	動機づけと教育方法（1）：動機づけを高める教育方法とは	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(8)	動機づけと教育方法（2）：教育方法と学習者の目標志向性	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(9)	話し合いを利用した授業実践（1）：アクティブラーニングとは	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと

(10)	話し合いを利用した授業実践 (2) : アクティブラーニングについてのプレゼンテーション	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(11)	話し合いを利用した授業実践 (3) : アクティブラーニングの実践事例から学ぶ	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(12)	個人差と教育方法 : 発達障害の理解とそれへの対応	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(13)	情報機器を用いた教育 : ICT 教育とは	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(14)	情報機器を用いた教育 : E ラーニングの課題の作成	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(15)	総まとめ : 全体の振り返りと理解の確認	予習	E キャンパスに示される予習課題に取り組んだ上、授業に参加すること
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70710	後期集中	4	2
授業科目名	生徒・進路指導論			学習相談	
英字科目名	Student Guidance			< e-Mail > yuk-hr@kurume-it.ac.jp を利用する。 また、6号館4階 原研究室にて相談する。	
代表教員名		担当教員名			
原幸範		原幸範（Yukinori HARA）			
使用テキスト					
解説プリントと演習プリント、参考資料や新聞記事などを配布する。					
授業の概要					
21世紀を生きる児童生徒の現状を概観すると同時に近年の生徒指導を考察する。近年の生徒指導の変遷を理解し、生徒指導の意義と課題及びその解決について解説する。また、進路指導では、生徒の適性や資質をもとに進路希望の実現のための支援のあり方を考察する。進路実現のための取り組みについて生徒自ら判断し、自ら選択し、生徒自身にどのように考えさせればよいかを考察する。学校の組織力を生かして、生徒指導と進路指導が実際どのように行なわれているかを具体的事例で解説する。					
到達目標					
(1) 生徒指導の領域と指導体制を理解し、組織の中で生かされる生徒指導の在り方を理解する。 (2) 生徒指導の意義や考え方を理解し、生徒に寄り添った生徒指導の実践方法と工夫のいろいろを探究する力を身につける。 (3) 進路指導の意義や考え方を理解し、生徒の興味・関心と自己指導能力を育てる実践的な方法を考える力を身につける。					
履修上の注意					
学校の現場で苦勞する教師の達成感や満足感が如何に教職の魅力や遣り甲斐に繋がっているかを知ることが極めて重要です。自己の適性や資質能力を考慮し、自分なりの生徒指導や進路指導ができるように、常に『教師になったとき』を意識して学ぶようにしてください。 また、生徒の興味、関心、意欲を汲み取った指導が実践できるように具体的事例の意味まで理解するようにしてください。					
成績評価の方法・基準					
授業取り組み状況（20％） 課題レポート（30％） 期末試験（50％） 等を総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック					
1．講義中に出題した演習プリントや確認テストを復習して最終講義までに学び直しをする。 2．課題レポートは指定された期日までに提出する。不十分な場合は返却するので修正して再提出する。 3．期末試験の解答例を原研究室（6号館4階）に掲示するので確認する。					
参考図書	中学校学習指導要領 または、高等学校学習指導要領 （文部科学省） 『生徒指導・教育相談・進路指導』 仙崎武ほか（著） （田研出版）				
関連科目	教職科目全般				
学位授与の方針との関連	関心・意欲・態度 （6）社会の仕組みを理解し、社会人としての倫理観に基づいて技術者としての責任を遂行することができる。また、他者と協働し、社会に貢献・奉仕することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	生徒指導の意義とその変遷 ～生徒指導の考え方に関する変遷～	予習	『学習指導要領 総則編』の生徒指導に関する部分を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、プリント問題を解き直す。
(2)	生徒指導と個性尊重 ～自己教育力、自主・自律・自発性～	予習	『学習指導要領 総則編』の自己教育能力に関する部分を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、プリント問題を解き直す。
(3)	生徒指導と社会性 ～公共心の育成と社会生活～	予習	『学習指導要領 総則編』の公共と社会性に関する部分を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、プリント問題を解き直す。
(4)	生徒指導とその指導方法 ～生徒指導の基盤となる生徒理解～	予習	生徒理解の方法について下調べをしてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリント問題を解き直す。
(5)	生徒指導の領域と機能性 ～基本的な生活習慣と心身の健康～	予習	生徒の生活実態について下調べをしてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリント問題を解き直す。
(6)	生徒指導と学校教育目標 ～学校運営における生徒指導の重要性～	予習	学校自己評価を参考に学校教育目標を調べてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリント問題を解き直す。
(7)	生徒指導における教育相談 ～カウンセリング技法を生かす～	予習	生徒の具体的な相談事例について考えてくる。
		復習	授業を振り返り、演習プリントを仕上げる。
(8)	学習上の不適応と生徒指導 ～学習不適応、いじめ、不登校など～	予習	学習不適応などに関する事例を調べてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリント問題を解き直す。
(9)	組織を活かした生徒指導 ～学校組織と生徒指導～	予習	校務分掌の生徒指導部について下調べをしてくる。
		復習	授業内容を振り返り、纏めプリントを仕上げる。

(10)	進路指導の意義と目的　～キャリアガイダンスの基本～	予習	『学習指導要領 総則編』に記載されている進路指導を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(11)	進路指導部の組織と方法　～効果的な進路指導と学校の組織～	予習	校務分掌の進路指導部について下調をしてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(12)	進路希望と進路適性　～進路実現と能力・適性～	予習	見本となる進路希望調査用紙（案）を作成してくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(13)	進路への関心とその形成　～系統的な進路指導計画～	予習	学校自己評価を参考にして学校進路指導方針を調べてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(14)	進路に関する情報の収集方法　～進路情報の収集と選択～	予習	ネットなどを利用して進路情報を調べてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントの問題を解き直す。
(15)	生徒指導・進路指導における留意事項 ～個人情報の記録と情報管理～	予習	情報管理の適切な記録と情報漏洩に関する課題を調べてくる。
		復習	授業内容を振り返り、纏めプリントを仕上げる。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70610	前期	5	2
授業科目名	教育相談の基礎			学習相談	
英字科目名	School Counseling Methods			＜ e-Mail ＞ yuk-hr@kurume-it.ac.jp を利用する。 また、6号館4階 原研究室にて相談 する。	
代表教員名		担当教員名			
原幸範		原幸範（Yukinori HARA）			
使用テキスト					
『学級教育相談入門』 有村久春（著）（金子書房）					
授業の概要					
生徒それぞれが抱える教育上の諸課題（学習上の悩みや友人関係など）に対して、本人又は保護者に寄り添いながら 彼らの声に耳を傾けることはとても大切です。望ましい在り方 生き方を生徒に適切に助言し、支援することが求められます。そのとき教育相談の知識とカウンセリングの実際が有効に働きます。本講義では学級経営における教育相談について、担任の役割と生徒理解に基づくカウンセリングを考察し、管理職や養護教諭、スクールカウンセラー等との連携協力のあり方を学びます。					
到達目標					
（1）カウンセリングの技法やカウンセラーの職務の概要を知り、生徒理解を深める工夫と生徒相談に応じる力を身につける。 （2）教職員間の連携協力の大切さを理解し、いろいろな教育相談の技法を活かした実践的能力を身につける。 （3）教育相談の具体的事例を考察して、学級担任に必要な生徒理解と生徒相談等ができる。					
履修上の注意					
・授業では教育現場の具体的事例を紹介して討議することになるので各自の考えをまとめる。 ・教育相談を生かした学級経営について、具体的事例を踏まえた課題レポートを作成する。 ・現実に発生する教育課題(いじめ、不登校、傷害事件や生徒補導等)のニュースに関心を払う。 ・参考図書やネット検索を利用して、教育の専門用語を調べる習慣を身につける。					
成績評価の方法・基準					
授業取り組み状況（20％） 課題レポート（30％） 期末試験（50％） 等を総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック					
1．講義中に利用した演習プリントなどを復習して最終講義までに学び直しをする。 2．課題レポートは指定された期日までに提出する。不明な点は事前に相談する。 3．期末試験の解答例を原研究室（6号館4階）に掲示するので確認する。					
参考図書	中学校学習指導要領 または、高等学校学習指導要領（文部科学省） 『生徒指導・教育相談・進路指導』 仙崎武ほか（著）（田研出版）				
関連科目	教職科目全般				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （1）技術者に求められる幅広い教養および工学の基礎知識修を身につけている。 技能・表現 （7）言語力、コミュニケーション力 及び プレゼンテーション力等の技能を身に付け、社会の多様な人々と協働することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	現代の教育課題と教育相談 ～教育相談の意義と目的～	予習	今、子どもたちが抱えている課題を調べてくる。
		復習	授業内容を復習して、再びキーワードを理解し直す。
(2)	「生きる力」と自立心の育成 ～子どもの自己教育力～	予習	学習指導要領を参考にして、「生きる力」について調べてくる。
		復習	授業内容を復習して、プリント問題を解き直す。
(3)	カウンセリングの考え方 ～生徒理解と生徒との関わり方～	予習	テキスト『学級教育相談入門』の14頁を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、配布したプリントを読み直してくる。
(4)	教師のカウンセリングマインド ～生徒目線、傾聴、共感的受容～	予習	テキスト『学級教育相談入門』の20頁を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、配布したプリントを読み直してくる。
(5)	子どもとかかわる基本原理 ～カウンセリングの発想～	予習	テキスト『学級教育相談入門』の31頁を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、課題プリントを仕上げる。
(6)	子どもの努力・成長に学ぶ ～生徒の自己指導力を信じる～	予習	テキスト『学級教育相談入門』の51頁迄を読んでくる。
		復習	6回の授業を振り返って、演習問題を仕上げる。
(7)	計画的な学級集団の経営 ～豊かな学級経営と教師の役割～	予習	テキスト『学級教育相談入門』の59頁を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、配布プリントを読み直す。
(8)	コミュニケーション能力の育成 ～援助の視点と異年齢集団～	予習	テキスト『学級教育相談入門』の72頁を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、配布プリントを読み直してくる。
(9)	指導観・授業観の転換 ～役割活動と特別活動の活用～	予習	テキスト『学級教育相談入門』の79頁を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、配布プリントを読み直す。

(10)	教育相談の計画立案 ～相談計画の考え方と必要性～	予習	テキスト『学級教育相談入門』の８９頁を読んでくる。
		復習	提示されたプリントを利用して相談計画書を作成する。
(11)	相談計画と活動の実際 ～学級担任の活動事例に学ぶ～	予習	テキスト『学級教育相談入門』の９４頁を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、配布プリントを読み直す。
(12)	教育相談の指導報告書と研修 ～面談や家庭訪問等の事例に学ぶ～	予習	テキスト『学級教育相談入門』の１０７頁を読んでくる。
		復習	与えられたプリントを利用して指導報告書を作成する。
(13)	スクールカウンセラー(S.C.)の役割 ～S.C.養成と資格取得、活動領域～	予習	スクールカウンセラーについて下調べしてくる。
		復習	授業を振り返り、演習プリントを解き直す。
(14)	S.C.に求められる資質と経験 ～人格的資質や教育訓練について～	予習	スクールカウンセラーの勤務状況等を調べてくる。
		復習	授業を振り返り、演習プリントを解き直す。
(15)	学校の現状（不登校やいじめ等） ～不登校の実態といじめ克服～	予習	不登校やいじめ等に関するニュースを調べてくる。
		復習	授業内容を振り返り、纏めプリントを仕上げる。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70950	後期	8	2
授業科目名	教職実践演習			学習相談	
英字科目名	Practical Seminar on Teaching			＜ e-Mail ＞ yuk-hr@kurume-it.ac.jp を利用する。 また、6号館4階 原研究室にて相談する。	
代表教員名		担当教員名			
原幸範		原幸範（Yukinori HARA）			
使用テキスト					
『教師力を磨く』 仲島正教(著) （大修館書店）					
授業の概要					
テキストを読み込むことによって学級担任の業務内容と教育的価値、教師の遣り甲斐を再考して論作文に表現する。また、その論作文を下地にスピーチを実施して実践的スピーチを学ぶ。スピーチ力は授業でもホームルーム活動等でも役に立つ。更に、現場教師の授業観察を通して授業の組み立て方や工夫などを学び直し、教師の使命を考え、学校教育の役割を理解し、教育活動の魅力を再認識する。教育実習で遭遇した具体的事例をもとに、その対応の仕方や解決への道筋、留意事項等を考察し、現場で必要とされる実践能力を養う。					
到達目標					
（１）教育の使命感や教育への情熱を堅持して、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢や心構えを身につける。 （２）子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間関係づくりができる。 （３）教員としての職責や義務の自覚に基づき、他の教員と協力して職務を遂行できる。 （４）教科書の内容を理解し、学習指導の基本的事項（板書、話し方、表情や言動など）を身につける。					
履修上の注意					
・ 論作文は教師にとって重要な表現力や伝達力を養うことになる。積極的に文章表現に取り組む。 ・ いま発生している教育テーマの課題・問題点に気づき、その改善策や対処法を考えるようにする。 ・ スピーチや模擬授業などを相互に観察することによって魅力を見抜く力や分析力、批判力を磨く。					
成績評価の方法・基準					
模擬授業（20％） 論作文（20％） スピーチ（20％） 授業取組み状況（30％） などを総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック					
１． 論作文は指定された期日までに提出する。不十分な場合は返却するので修正して再提出する。 ２． 模擬授業がうまくできるように学習指導案を作成して期日までに提出する。 ３． 講義中の実践活動（模擬授業やスピーチなど）は評価の対象になるので十分に練習する。不安があれば個別相談に応じる。					
参考図書	日本国憲法や教育基本法、学校教育法、中学・高校学習指導要領など				
関連科目	教職科目全般				
学位授与の方針との関連	技能・表現 （７）言語力、コミュニケーション力 及び プレゼンテーション力等の技能を身に付け、社会の多様な人々と協働することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	教師に求められる資質と能力 ～教師の使命、教職の魅力～	予習	現代の教育課題で気になることを調べてくる。
		復習	授業内容を振り返り、与えられた論作文を書いてくる。
(2)	「教師のすすめ」 ～教師の仕事内容と勤務状況～	予習	テキスト『教師力を磨く』の14頁を読んてくる。
		復習	授業内容を振り返り、与えられた論作文を書いてくる。
(3)	「若い人のすすめ」 ～教育への情熱と科学的思考～	予習	テキスト『教師力を磨く』の40頁を読んてくる。
		復習	授業内容を振り返り、与えられた論作文を書いてくる。
(4)	「出会いのすすめ」 ～スピーチと第一印象～	予習	自己紹介のためのスピーチを準備してくる。
		復習	授業内容を振り返り、与えられた論作文を書いてくる。
(5)	「遊びのすすめ」 ～生徒理解と生徒に寄り添うこと～	予習	テキスト『教師力を磨く』の82頁を読んてくる。
		復習	授業内容を振り返り、与えられた論作文を書いてくる。
(6)	「褒めるのすすめ」 ～褒め方と叱り方～	予習	テキスト『教師力を磨く』の100頁を読んてくる。
		復習	授業内容を振り返り、与えられた論作文を書いてくる。
(7)	「研究授業のすすめ」 ～学習指導案の作成～	予習	テキスト『教師力を磨く』の122頁を読んてくる。
		復習	授業内容を振り返り、学習指導案を作成してくる。
(8)	「研究授業のすすめ」 ～テーマ設定と模擬授業～	予習	各自「研究授業」のテーマを考えてくる。
		復習	授業内容を振り返り、授業評価票を仕上げる。
(9)	「学級通信のすすめ」 ～生徒の個性を生かす学級通信～	予習	テキスト『教師力を磨く』の144頁を読んてくる。
		復習	授業内容を振り返り、学級通信を作成する。
(10)	「書くことのすすめ」 ～文章表現とノート指導～	予習	テキスト『教師力を磨く』の162頁を読んてくる。
		復習	授業内容を振り返り、与えられた論作文を書いてくる。

(11)	「人権教育のすすめ」 ～差別意識と平等～	予習	テキスト『教師力を磨く』の１８４頁を読んでくる。
		復習	授業内容を振り返り、演習プリントを解き直す。
(12)	「道徳教育のすすめ」 ～礼儀や挨拶と人間関係～	予習	「道徳」に関連した具体的事例を調べてくる。
		復習	授業内容を振り返り、与えられた論作文を書いてくる。
(13)	「体育のすすめ」 ～体育を通して人間づくり～	予習	テキスト『教師力を磨く』の２０４頁を読んでくる。
		復習	授業内容を振り返り、与えられた論作文を書いてくる。
(14)	今、課題となっている教育事例 ～教育課題を討論する～	予習	ニュースで取り上げられた教育課題を調べてくる。
		復習	討議を振り返り、教育課題の解決策を考える。
(15)	総まとめ ～教職の実践活動を振り返って～	予習	この実践活動を振り返って発表準備をする。
		復習	各自が教育課題を取り上げて論作文を作成する。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70720	前期	5	2
授業科目名	教育実習 I			学習相談	
英字科目名	Directed Teaching I			＜ e-Mail ＞ yuk-hr@kurume-it.ac.jp を利用する。 また、6号館4階 原研究室にて相談 する。	
代表教員名		担当教員名			
原幸範		原幸範（Yukinori HARA）			
使用テキスト					
解説プリントと演習プリント、参考資料や新聞記事などを配布する。					
授業の概要					
教育実習Ⅱ・Ⅲに備えての事前指導である。学校現場で教育実習を体験するために必要な知識を獲得する。「うまい授業」を実施するための学習指導案を作成し、教壇での模擬授業を実施し、授業観察のポイントを学ぶ。学習指導案や模擬授業の内容については、各自の教員免許取得を目指している教科から選ぶこととし、その作成と授業実践を重ねることによってスキルアップを図る。					
到達目標					
（１）模擬授業の実施を通して、「うまい授業」を行なうための授業力を磨いて自信を身につける。 （２）授業における説明技術、発問方法、板書の仕方、授業観察法などを論理的に身につける。 （３）教育現場における教師の義務と責任を理解し どのような生徒にも適切に対応できる。					
履修上の注意					
・ 模擬授業では、馴れ合い的で雑な授業にならないように高い意識と責任感をもって実施する。 ・ 学習指導案が十分に練り上げて書かれていれば「うまい授業」を展開できる。準備の良し悪しが授業を決定する。 ・ 学習指導案を丁寧に書き上げるために参考図書を活用する。また、授業のやり方を解説した書籍を図書館やネット検索で調べることも大切である。					
成績評価の方法・基準					
模擬授業等の取り組み状況（40％） 学習指導案（30％） 課題レポート（30％） 等を総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック					
１． 模擬授業は評価の対象である。疑問点は事前の相談に応じる。納得できる模擬授業を実施する。 ２． 完成された学習指導案を指定された期日までに提出する。完成までの草案については相談に応じる。 ３． 課題レポートは指定された期日までに提出する。指定期日以後は理由の有無にかかわらず受け付けない。					
参考図書	『教育実習の理論と実践』 九州地区教育実習研究会編 （中川書店） 『分かる授業ができる学習指導案のつくり方』 大木光夫(著) （学習研究社）				
関連科目	教職科目全般				
学位授与の方針との関連	関心・意欲・態度 （６）社会の仕組みを理解し、社会人としての倫理観に基づいて技術者としての責任を遂行することができる。また、他者と協働し、社会に貢献・奉仕することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	教育実習の使命と意義について ～理論と実践の観点から～	予習	参考図書『教育実習の理論と実践』の3 2頁を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、教育実習用ノート に記録する。
(2)	学習指導案の作成 I ～教材研究と教科指導法～	予習	参考図書『教育実習の理論と実践』の1 31頁を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、教育実習用ノート に記録する。
(3)	学習指導案の作成 II ～生徒理解と興味・関心・意欲～	予習	資料『学習指導案の作り方』を読み込 んでくる。
		復習	授業内容を復習して、課題プリントを仕 上げる。
(4)	うまい授業を実施する視点 ～生徒にやる気を引き出す～	予習	課題プリント『うまい授業とは』を考え てくる。
		復習	授業中に実施した演習プリントをやり 直す。
(5)	うまい授業のポイント I ～時間配分と授業進度～	予習	資料『学習指導案の作り方』の97頁 を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、教育実習用ノート に記録する。
(6)	うまい授業のポイント II ～板書計画と発問の工夫～	予習	資料『学習指導案の作り方』の104 頁を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、教育実習用ノート に記録する。
(7)	うまい授業のポイント III ～授業の視覚効果と想像力～	予習	資料『学習指導案の作り方』の105 頁を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、課題プリントを仕 上げる。
(8)	模擬授業の実際 グループ A	予習	これまでに学んできた『授業実施』のポ イントを踏まえる。
		復習	授業の実施や授業観察を通して教科指 導力を磨き、授業力の向上を図る。
(9)	模擬授業の実際 グループ B	予習	これまでの『授業実施』のポイント及び 前回の模擬授業を踏まえる。
		復習	授業の実施や授業観察を通して教科指 導力を磨き、授業力の向上を図る。

(10)	模擬授業の実際 グループ C	予習	これまでの『授業実施』のポイント及び前回の模擬授業を踏まえる。
		復習	授業の実施や授業観察を通して教科指導力を磨き、授業力の向上を図る。
(11)	模擬授業の実際 グループ D	予習	これまでの『授業実施』のポイント及び前回の模擬授業を踏まえる。
		復習	授業の実施や授業観察を通して教科指導力を磨き、授業力の向上を図る。
(12)	模擬授業の実際 グループ E	予習	これまでの『授業実施』のポイント及び前回の模擬授業を踏まえる。
		復習	授業の実施や授業観察を通して教科指導力を磨き、授業力の向上を図る。
(13)	模擬授業の実際 グループ F	予習	これまでの『授業実施』のポイント及び前回の模擬授業を踏まえる。
		復習	授業の実施や授業観察を通して教科指導力を磨き、授業力の向上を図る。
(14)	模擬授業の実際 グループ G	予習	これまでの『授業実施』のポイント及び前回の模擬授業を踏まえる。
		復習	授業の実施や授業観察を通して教科指導力を磨き、授業力の向上を図る。
(15)	教育実習の実際を総括する ～教科指導力と生徒指導力の大切さ～	予習	教育実習中の行動を予想して、教育実習ノートに要点を整理する。
		復習	模擬授業を振り返り、纏めプリントを仕上げる。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70730	通年	7-8 (4 年次)	2
授業科目名	教育実習Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Directed Teaching Ⅱ			＜e-Mail＞yuk-hr@kurume-it.ac.jp を利用 する。 また、6 号館 4 階 原研究室にて相談する。	
代表教員名		担当教員名			
原幸範		原幸範（Yukinori HARA）			
使用テキスト					
『教育実習の理論と実践』 九州地区教育実習研究会編 （中川書店） 『教育実習日誌』 （学術図書出版社）					
授業の概要					
教育実習に行く直前の大学における事前指導では、教師としての心構えや礼儀等を確認する。次に中学校または高校の教育現場において実際に教師としての教育実習を体験する。教育実習を終えて実習体験を互いに共有するための教育実習報告会を実施する。また、お世話になった実習校の先生方に各自お礼状を送付する。さらに、実習体験の感想文をもとに体験記を編集する。					
到達目標					
（１）専門職としての教師には理論と実践能力の双方が要求される。学校現場での体験を通してそれらを体得する。 （２）教育現場で生徒と対峙し、実践的な対応力を養って これまで習得してきた知識や能力の統合していくことができる。 （３）教育実習体験を振り返って各自がめざす『理想の教師像』に近づくための資質と能力を再検討ができる。					
履修上の注意					
・教育実習を完遂する能力、態度や礼儀などを事前に確認するための評価テストを実施する。 ・評価レベルに達していない場合や正当な理由を連絡せずに事前指導を受けていない場合は、その時点で実習への参加資格を失う。 ・感謝の心をもって実習に臨むと同時に、実習先への礼儀が疎かにならぬように注意する。 ・実習日誌には必要事項（学校情報、実習校からの指示項目、毎日の活動記録、授業観察や授業実践の反省など）を記録する。					
成績評価の方法・基準					
教育実習校評価（40％） 教育実習日誌（30％） 体験レポート・自己評価票（20％） お礼状の写し（10％） 等を総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック					
１．教育実習日誌（①実習校の現況②日々の活動記録③授業参観の記録④授業実習の記録⑤教育実習の感想）を記入し、実習校検印後に提出する。 ２．教育実習体験記と自己評価票を教育実習が終了した後に提出する。（体験記はメール送信も可能） ３．教育実習が終了した５日以内に送付するお礼状のコピーを持参提出する。					
参考図書	『教育実習 まるわかり』～小学校・中学校・高校編～（小学館）				
関連科目	教職科目全般				
学位授与の方針との関連	技能・表現 （７）言語力、コミュニケーション力 及び プレゼンテーション力等の技能を身に付け、社会の多様な人々と協働することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	事前指導 I ～教育実習の概要と注意事項～	予習	『教育実習の理論と実現』の第2章を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、資料プリントを読み直す。
(2)	事前指導 II ～教育実習に臨む際の留意点～	予習	『教育実習の理論と実現』の第4章を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、資料プリントを読み直す。
(3)	事前指導 III ～教師の遵守事項について～	予習	『教師の遵守事項』プリントの具体的事例を考えてくる。
		復習	授業内容を復習して、資料プリントを読み直す。
(4)	事前指導 IV ～教育実習日誌について～	予習	『教育実習日誌』の指定された部分を実際を書いてくる。
		復習	授業内容を復習して、資料プリントを読み直す。
(5)	事前指導 V ～お礼状の書き方と体験記～	予習	『教育実習の理論と実現』の関連部分を読み直してくる。
		復習	授業内容を復習して、演習プリントを仕上げる。
(6)	教育実習校での教育実習体験 I	予習	体験する教育実習校に関する情報を集める。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。
(7)	教育実習校での教育実習体験 II	予習	教育実習校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。
(8)	教育実習校での教育実習体験 III	予習	教育実習校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。

(9)	教育実習校での教育実習体験 IV	予習	教育実習校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。
(10)	教育実習校での教育実習体験 V	予習	教育実習校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。
(11)	教育実習校での教育実習体験 VI	予習	教育実習校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。
(12)	教育実習校での教育実習体験 VII	予習	教育実習校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。
(13)	教育実習校での教育実習体験 VIII	予習	教育実習校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。
(14)	事後指導（前半） ～教育実習の報告と発表～	予習	体験で得た教訓等をまとめ、発表の準備をする。
		復習	発表を振り返り、課題プリントを仕上げる。
(15)	事後指導（後半） ～教育実習の報告と発表、総括～	予習	報告・発表から得たものをまとめ、整理する。
		復習	体験の報告・発表や討議で得たものを総括する。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70740	通年	7-8 (4 年次)	2
授業科目名	教育実習Ⅲ			学習相談	
英字科目名	Directed TeachingⅢ			＜ e-Mail ＞ yuk-hr@kurume-it.ac.jp を利用する。 また、6 号館 4 階 原研究室にて相談 する。	
代表教員名		担当教員名			
原幸範		原幸範（Yukinori HARA）			
使用テキスト					
『教育実習の理論と実践』九州地区教育実習研究会編（中川書店） 『教育実習日誌』（学術図書出版社）					
授業の概要					
事前指導、事後指導 及び 成績評価は「教育実習Ⅱ」と同時に行う。本科目は、中学校教員免許状取得を目指す者が中学校の教育現場において「教育実習Ⅱ」（2 単位）と合わせて 4 単位分の教育実習を行うものである。					
到達目標					
（１）専門職としての教師には理論と実践能力の双方が要求される。学校現場での体験を通してそれらを体得する。 （２）教育現場で生徒と対峙し、実践的な対応力を養って これまで習得してきた知識や能力の統合することができる。 （３）教育実習体験を振り返って各自がめざす『理想の教師像』に近づくための資質と能力を再検討できる。					
履修上の注意					
・中学校 1 種免許取得希望者は、教育実習の期間は、「教育実習Ⅱ」と「教育実習Ⅲ」を合わせて 3 週間または 4 週間である。（実習期間についてはそれぞれの実習校が決定する。ただし、高校 1 種免許のみ取得を希望する者は「教育実習Ⅱ」の 2 週間だけであり、本科目を履修する必要はない。） ・教育実習を完遂する能力、態度や礼儀などを事前に確認するための評価テストを実施する。 ・評価レベルに達していない場合や正当な理由を連絡せずに事前指導を受けていない場合は、その時点で実習への参加資格を失う。 ・感謝の心をもって実習に臨むと同時					
成績評価の方法・基準					
教育実習校評価（40％） 教育実習日誌（30％） 体験レポート・自己評価票（20％） お礼状の写し（10％） 等を総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック					
１．教育実習日誌（①実習校の現況②日々の活動記録③授業参観の記録④授業実習の記録⑤教育実習の感想）を記入し、実習校検印後に提出する。 ２．教育実習体験記と自己評価票を教育実習が終了した後に提出する。（体験記はメール送信も可能） ３．教育実習が終了した 5 日以内に送付するお礼状のコピーを持参提出する。					
参考図書	『教育実習 まるわかり』～小学校・中学校・高校編～（小学館）				
関連科目	教職科目全般				
学位授与の方針との関連	技能・表現 （７）言語力、コミュニケーション力 及び プレゼンテーション力等の技能を身に付け、社会の多様な人々と協働することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	事前指導 I ～教育実習の概要と注意事項～	予習	『教育実習の理論と実現』の第2章を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、資料プリントを読み直す。
(2)	事前指導 II ～教育実習に臨む際の留意点～	予習	『教育実習の理論と実現』の第4章を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、資料プリントを読み直す。
(3)	事前指導 III ～教師の遵守事項について～	予習	『教師の遵守事項』プリントの具体的事例を考えてくる。
		復習	授業内容を復習して、資料プリントを読み直す。
(4)	事前指導 IV ～教育実習日誌について～	予習	『教育実習日誌』の指定された部分を実際を書いてくる。
		復習	授業内容を復習して、資料プリントを読み直す。
(5)	事前指導 V ～お礼状の書き方と体験記～	予習	『教育実習の理論と実現』の関連部分を読み直してくる。
		復習	授業内容を復習して、演習プリントを仕上げる。
(6)	教育実習校での教育実習体験 I	予習	体験する教育実習校に関する情報を集める。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。
(7)	教育実習校での教育実習体験 II	予習	教育実習校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。
(8)	教育実習校での教育実習体験 III	予習	教育実習校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。

(9)	教育実習校での教育実習体験 IV	予習	教育実習校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。
(10)	教育実習校での教育実習体験 V	予習	教育実習校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。
(11)	教育実習校での教育実習体験 VI	予習	教育実習校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。
(12)	教育実習校での教育実習体験 VII	予習	教育実習校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。
(13)	教育実習校での教育実習体験 VIII	予習	教育実習校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	教室や職員室などで観察したことや実践したこと全てを教育実習日誌に記録するよう心掛ける。
(14)	事後指導（前半） ～教育実習の報告と発表～	予習	体験で得た教訓等をまとめ、発表の準備をする。
		復習	発表を振り返り、課題プリントを仕上げる。
(15)	事後指導（後半） ～教育実習の報告と発表、総括～	予習	報告・発表から得たものをまとめ、整理する。
		復習	体験の報告・発表や討議で得たものを総括する。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
教職に関する科目		70840	通年	5・6 (3 年次)	2
授業科目名	介護等体験			学習相談	
英字科目名	Experience in Nursing			＜ e-Mail ＞ yuk-hr@kurume-it.ac.jp を利用する。 また、6 号館 4 階 原研究室にて相談 する。	
代表教員名		担当教員名			
原幸範		原幸範（Yukinori HARA）			
使用テキスト					
『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（四訂版）』 現代教師養成研究会編（大修館書店）					
授業の概要					
中学校教員免許状を取得するには「介護等体験特例法」により、社会福祉施設等 5 日間、特別支援学校 2 日間の合計 7 日間の介護等体験が必要である。本科目ではそのための事前指導、事後指導および介護等体験の実際を行なう。					
到達目標					
（１）個人の尊厳や社会連帯の理念を学び、人間相互の関わりを理解して実践に生かす力を身につける。 （２）体験を通して、人の心の痛みがわかり、人を大切にする資質と能力を身に付ける。 （３）体験を通して、人それぞれの価値観の相違を受容できる寛容の精神を身につける。					
履修上の注意					
・介護等体験へ参加するための心構えや責任感、態度、礼儀等を事前に判断するための評価テストを実施する。 ・評価レベルに達していない場合や正当な理由を連絡せずに事前指導を受けていない場合は、その時点で介護等体験への参加資格を失う。 ・事後指導まで済ませることにより最終認定を受けることになるので注意する。 ・感謝の心をもって介護等体験に臨むと同時に、体験実習先への礼儀が疎かにならないように注意する。 ・体験で学んだことや感想を整理して介護等体験報告会に生かす。また、課題の「体験記」を提出する。					
成績評価の方法・基準					
事前・事後指導への参加状況（30％） 介護等体験ハンドブック（30％） 介護等体験記（20％） お礼状写し（20％） 等を総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック					
１．介護等体験ハンドブックは、①7 日間の活動記録 ②自己評価 を記載して、介護等体験の終了後すぐに提出する。 ２．介護等体験が終了した 5 日以内に送付するお礼状のコピーを持参提出する。 ３．介護等体験がすべて終了した後、介護等体験記を書いて持参提出する。					
参考図書	平成 9 年介護等体験特例法 及び 福岡県介護等体験実施要綱（ネット検索可能）				
関連科目	教職科目全般				
学位授与の方針との関連	技能・表現 （７）言語力、コミュニケーション力 及び プレゼンテーション力等の技能を身に付け、社会の多様な人々と協働することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	事前指導 I ～介護等体験の目的と概要～	予習	『介護等体験ハンドブック』の17頁までを読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントを読み直す。
(2)	事前指導 II ～介護等体験の手順と心構え～	予習	『介護等体験ハンドブック』の第2部1章を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントを読み直す。
(3)	事前指導 III ～特別支援学校について～	予習	『介護等体験ハンドブック』の第2部2章を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、プリントを読み直す。
(4)	事前指導 IV ～社会福祉施設等について～	予習	『介護等体験ハンドブック』の第2部3章を読んでくる。
		復習	授業内容を復習して、演習プリントを仕上げる。
(5)	特別支援学校における介護等体験（2日間） I	予習	体験する特別支援学校に関する情報を集める。
		復習	体験で体得したものをテキスト90頁に記録する。
(6)	特別支援学校における介護等体験（2日間） II	予習	介護等体験実施校では何事にも積極的に取り組み、特にコミュニケーション力を養う。
		復習	体験で体得したものをテキスト91頁に記録する。
(7)	特別支援学校における介護等体験（2日間） III	予習	介護等体験実施校では何事にも積極的に取り組み、特にコミュニケーション力を養う。
		復習	体験で体得したものをテキスト97頁に記録する。
(8)	社会福祉施設等における介護等体験（5日間） I	予習	介護等体験実施校では何事にも積極的に取り組み、特にコミュニケーション力を養う。
		復習	体験で体得したものをテキスト92頁に記録する。

(9)	社会福祉施設等における介護等体験（5日間）Ⅱ	予習	介護等体験実施校では何事にも積極的に取り組み、特にコミュニケーション力を養う。
		復習	体験で体得したものをテキスト93頁に記録する。
(10)	社会福祉施設等における介護等体験（5日間）Ⅲ	予習	介護等体験実施校では何事にも積極的に取り組み、特にコミュニケーション力を養う。
		復習	体験で感じたことや反省をテキスト94頁に記録する。
(11)	社会福祉施設等における介護等体験（5日間）Ⅳ	予習	介護等体験実施校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	体験で体得したものをテキスト95頁に記録する。
(12)	社会福祉施設等における介護等体験（5日間）Ⅴ	予習	介護等体験実施校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	体験で体得したものをテキスト96頁に記録する。
(13)	社会福祉施設等における介護等体験（5日間）Ⅵ	予習	介護等体験実施校では何事にも積極的に取り組み、特に生徒とのコミュニケーションを図る。
		復習	体験で感じたことや反省をテキスト98頁に記録する。
(14)	事後指導（前半） ～体験の報告・発表と討議～	予習	体験で得た教訓等をまとめ、発表の準備をする。
		復習	発表を振り返り、課題プリントを仕上げる。
(15)	事後指導（後半） ～体験の報告・発表と討議、総括～	予習	報告・発表から得たものをまとめ、整理する。
		復習	体験の報告・発表や討議で得たものを総括する。